

廿日市市こども計画 関連調査結果まとめ

廿日市市

目次

出典元について.....	1
こども・若者の状況.....	2
こどもの権利.....	2
こども・若者の意見表明.....	3
こども・若者の希望.....	12
こども・若者の自己効力感.....	13
居場所について.....	14
若者の活躍について.....	18
生活の満足度.....	19
結婚について.....	21
こどもの貧困をめぐる状況.....	26
こどもの校外活動・生活習慣と世帯収入の関連.....	26
こどもの学習状況と世帯収入の関連.....	28
ワーク・ライフ・バランスについて.....	29
こどもの育つ環境について.....	32
家庭、教育の場での男女共同参画.....	32
子育て環境について.....	35
子育て世帯の状況.....	39
こどもの人数.....	39
経済的な負担の状況.....	43

出典元について

本まとめは、市でこれまでに行ってきた以下のアンケート調査等から、こども・若者に関するものを抜粋してまとめたものです。

■次期総合計画策定のためのアンケート調査

実施期間	令和6年9月17日～10月18日 ほか		
対象	市内の小学校6年生・中学校3年生・高校3年生、大学生（山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学）、市内在住の20～50代1,000人		
回答数	小学生：938件 大学生：91件	中学生：862件 20～50代：275件	高校生：683件

■男女共同参画に関する市民アンケート調査

実施期間	令和6年10月23日～11月15日
対象	市内に在住する満18歳以上の男女2,000人（男女各1,000人）
回答数	731件（うち、本まとめにて分析対象となる18歳～30代：100件）

■男女共同参画に関する若者世代のアンケート調査

実施期間	令和6年10月23日～11月15日
対象	市内に在住する満20歳以上40歳未満の若者世代の男女1,000人（男女各500人）
回答数	252件

■「第3期廿日市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査

実施期間	令和6年1月12日～1月31日
対象	市内在住の就学前児童もが家庭の保護者1,800人 市内在住の小学生がいる家庭の保護者1,800人
回答数	就学前児童のいる保護者：936件 小学生のいる保護者：852件

■廿日市市子供の生活に関する実態調査

※広島県が実施した調査のうち、「廿日市市に住んでいる」と回答のあったものを再集計したもの

実施期間	令和5年6月～9月
対象	小学校5年生とその保護者、中学校2年生とその保護者
回答数	小学5年生：372件 小学5年生の保護者：374件 中学2年生：260件 中学2年生の保護者：238件

■子育てモニターに向けたアンケート

実施期間	令和6年7月1日～令和7年3月31日（委嘱期間）
対象	子育てモニター（市内在住の子育て中の方（30名））
回答数	30件

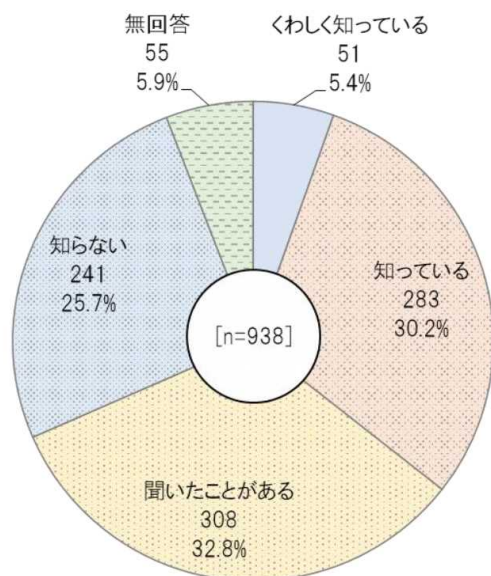
こども・若者の状況

こどもの権利

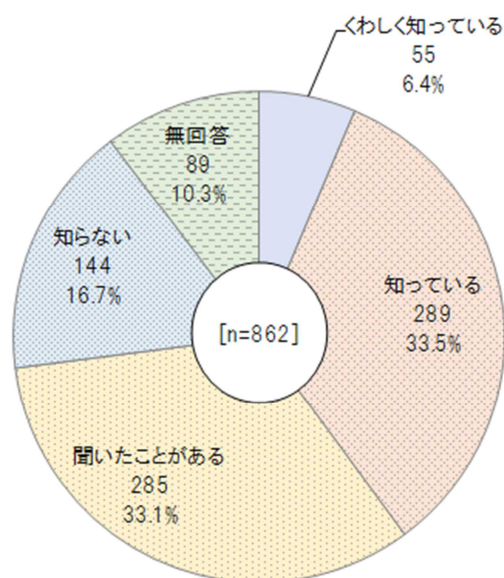
こどもの権利やこども基本法の認知度について、小学生・中学生では4割程度、高校生・大学生については1割程度となっています。

こどもの権利について、知っていますか。

■小学生

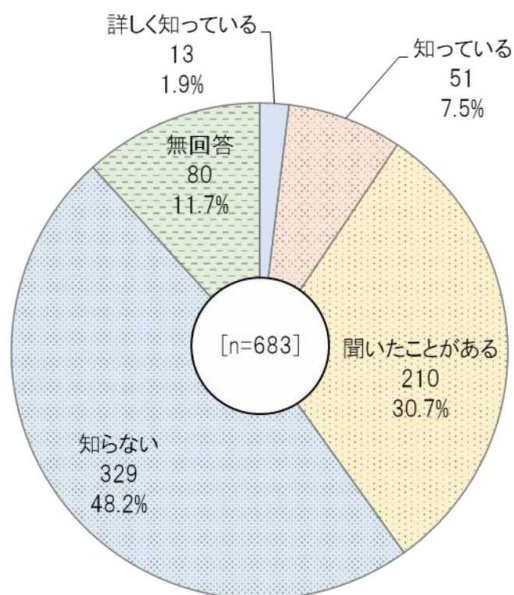


■中学生

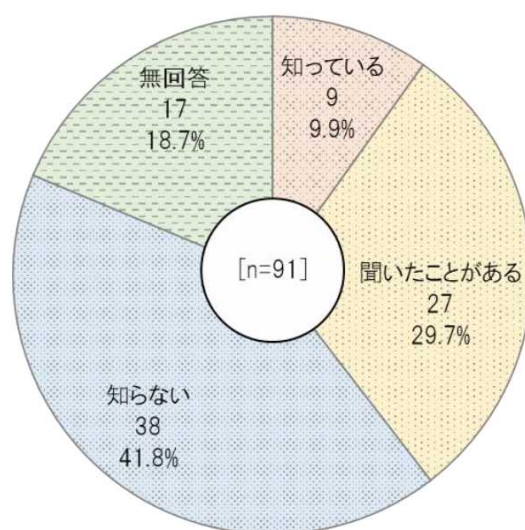


新しい法律「こども基本法」について、知っていますか。

■高校生



■大学生

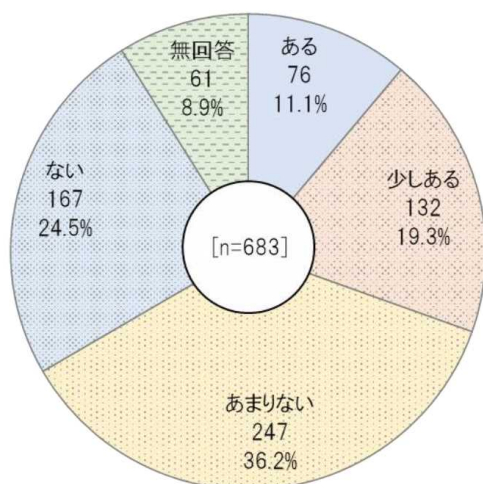


こども・若者の意見表明

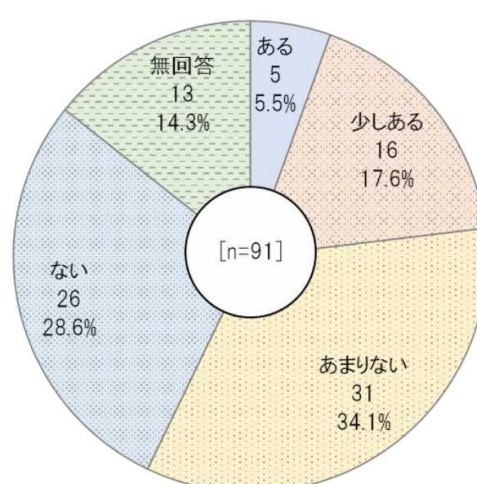
意見を言いたいと思ったことのある割合は、高校生で3割程度、大学生で2割程度となっています。言いたいと思わない理由として、市の取組を知らないことや伝え方がわからないことなどの割合が高くなっています。

あなたは、市がまちづくり等を行うにあたって、自分の意見や思いを伝えたいと思ったことはありますか。

■高校生

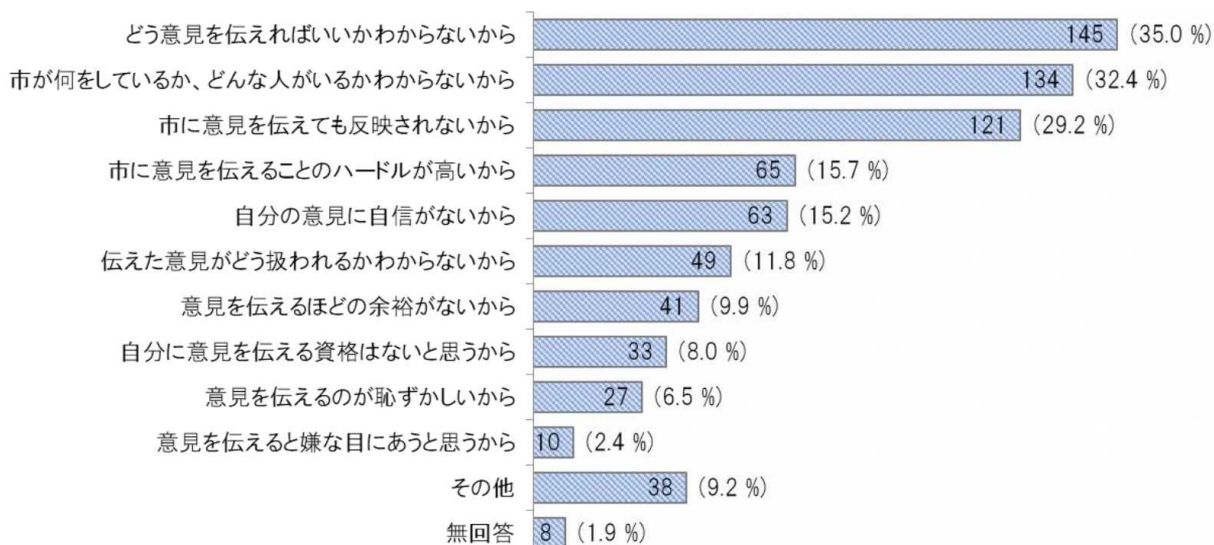


■大学生

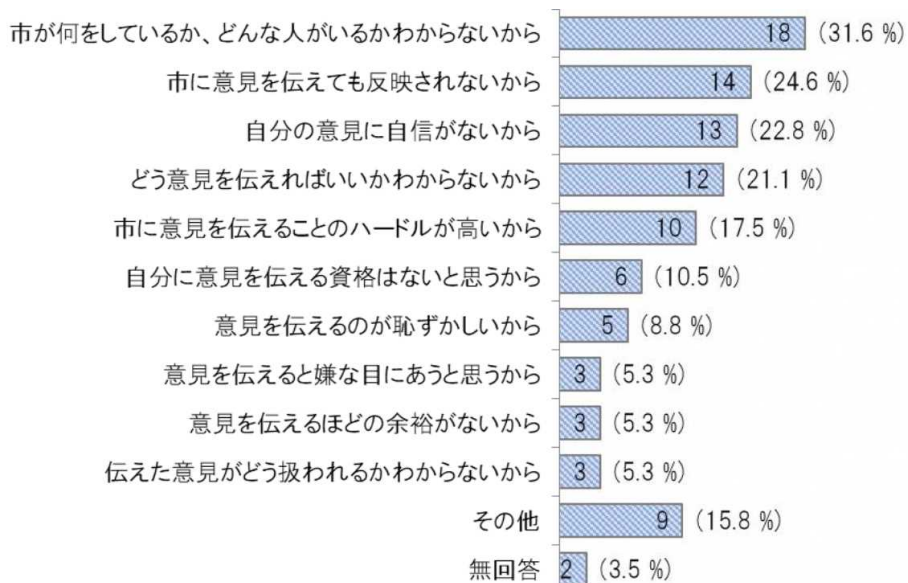


意見を伝えたいと思わない(思えない)理由は何ですか。

■高校生



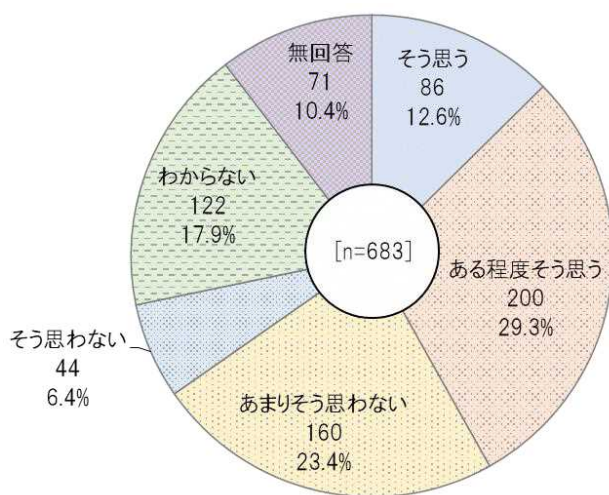
■大学生



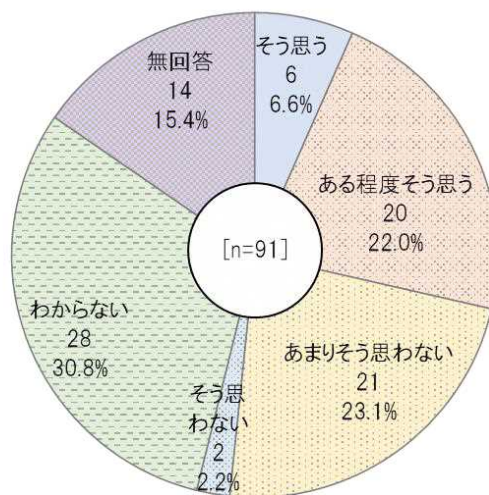
市が子どもや若者の意見を取り入れていると思う割合は、高校生で約4割程度、大学生で3割程度となっています。

あなたは、市がまちづくり等を行う際に、子どもや若者の意見を取り入れていると思いますか。

■高校生



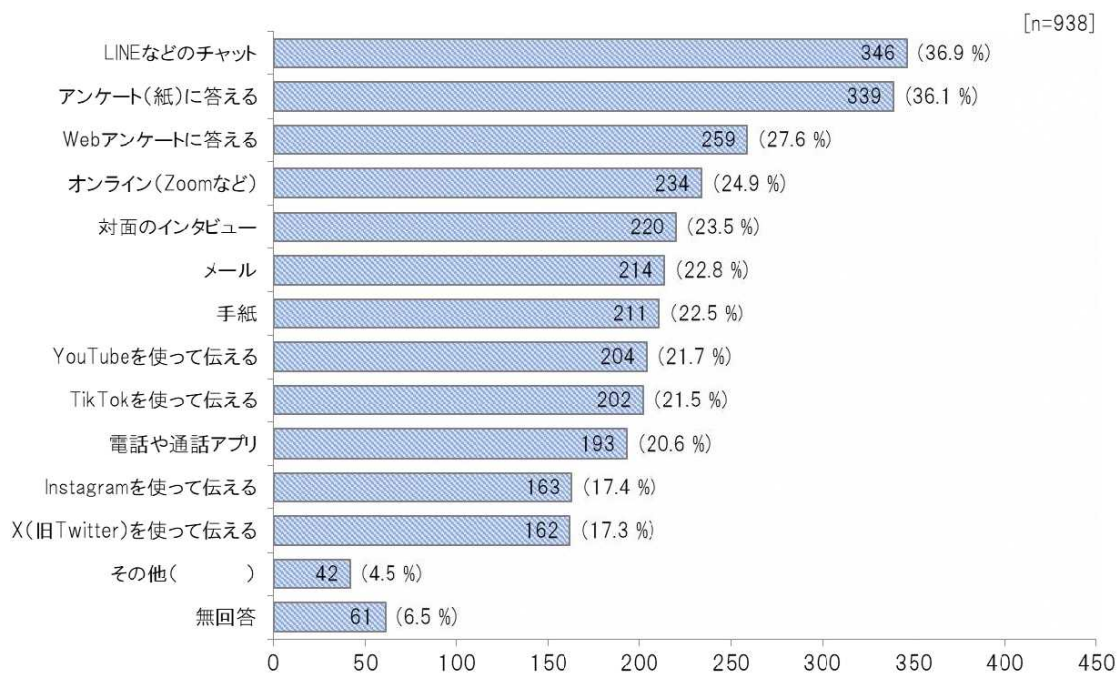
■大学生



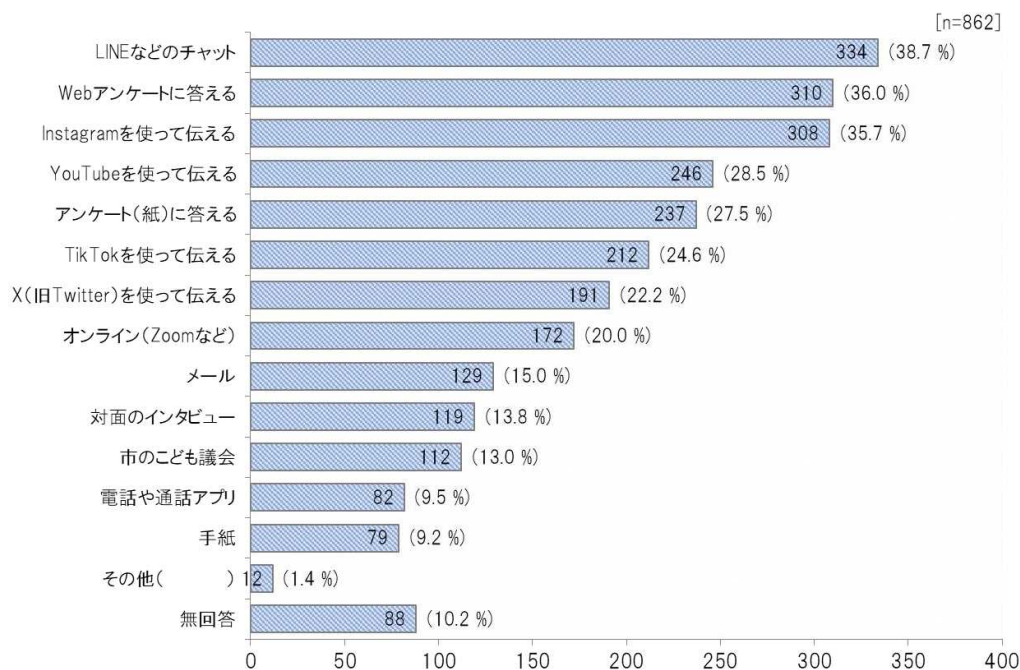
自分の意見を伝える方法は、小学生から大学生まで、すべての年代でアンケートやLINE等のチャットがよいと回答した割合が高くなっています。

廿日市市ではこどもの皆さんや若い人たちが自分の意見を伝えやすい場所や空間を作りたいと考えています。自分の意見を伝える方法として、どのような方法が良いと思いますか。

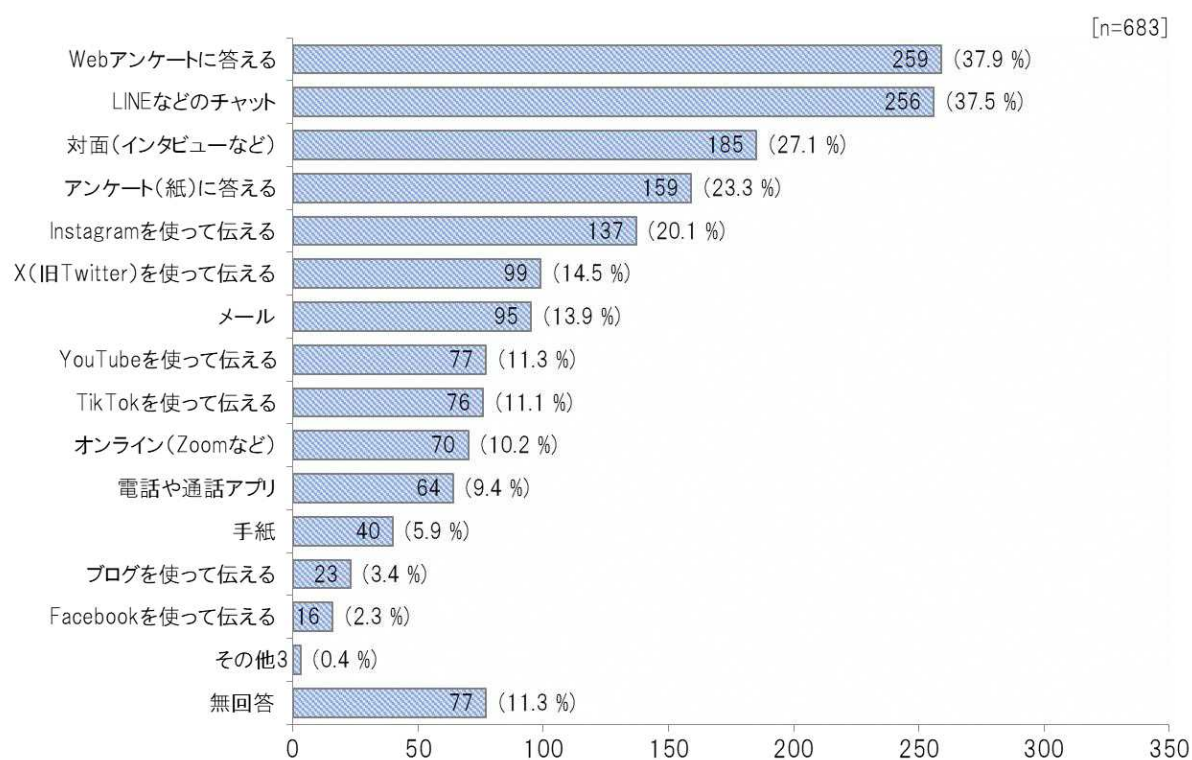
■小学生



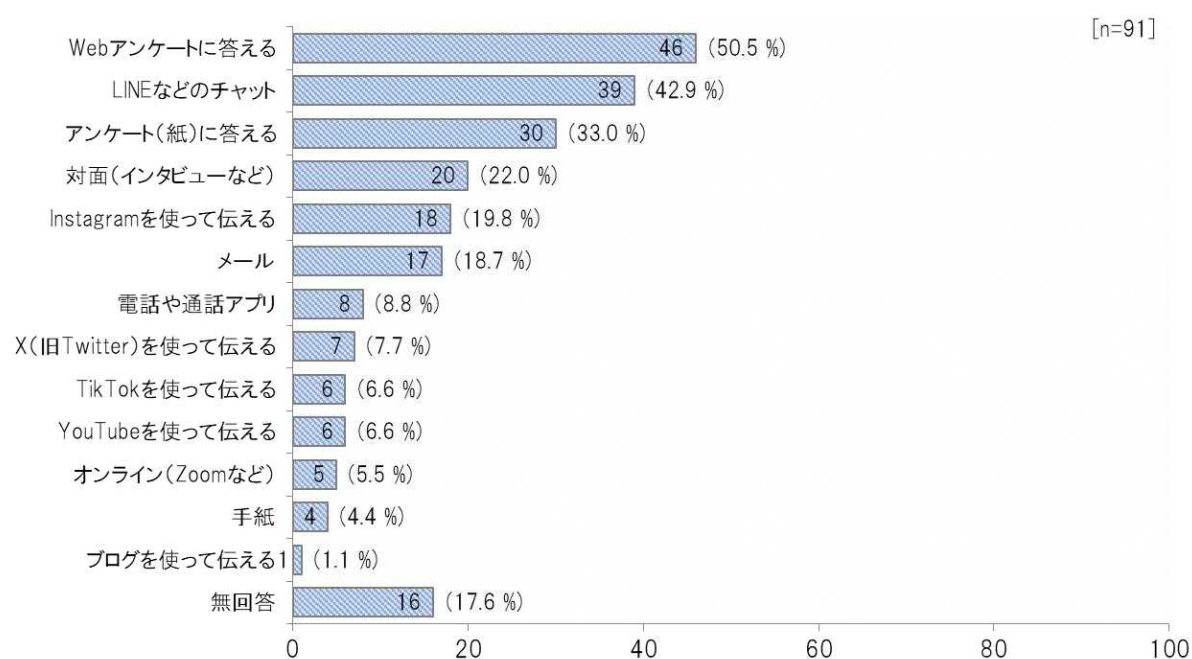
■中学生



■高校生



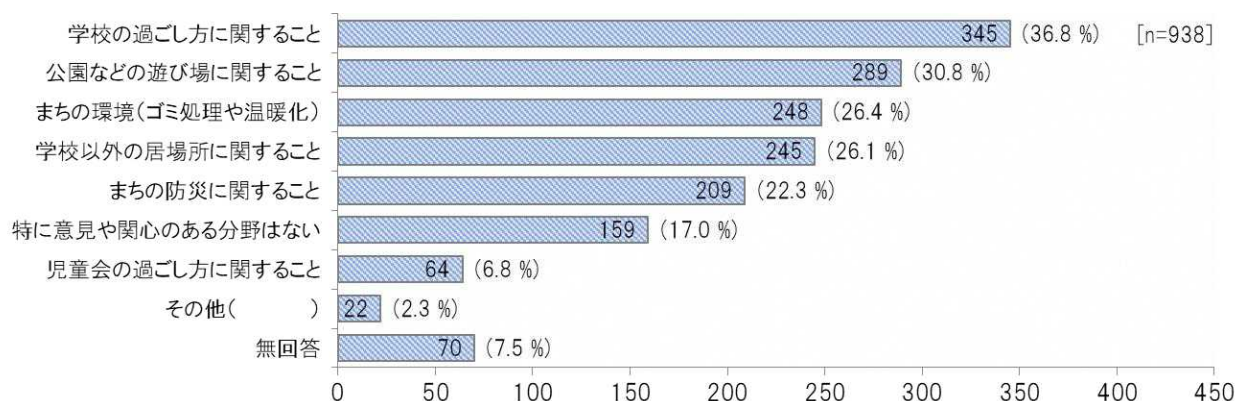
■大学生



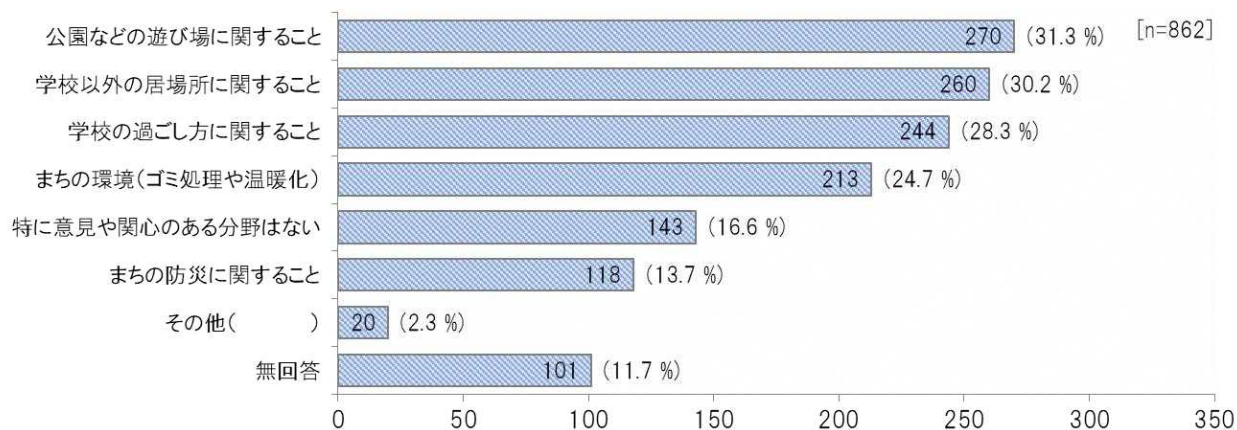
市に伝えたい意見は、小学生、中学生ともに、遊び場や学校、居場所など普段過ごす場に関するものの割合が高くなっています。

どのような分野の意見を廿日市市に伝えたいですか。

■小学生



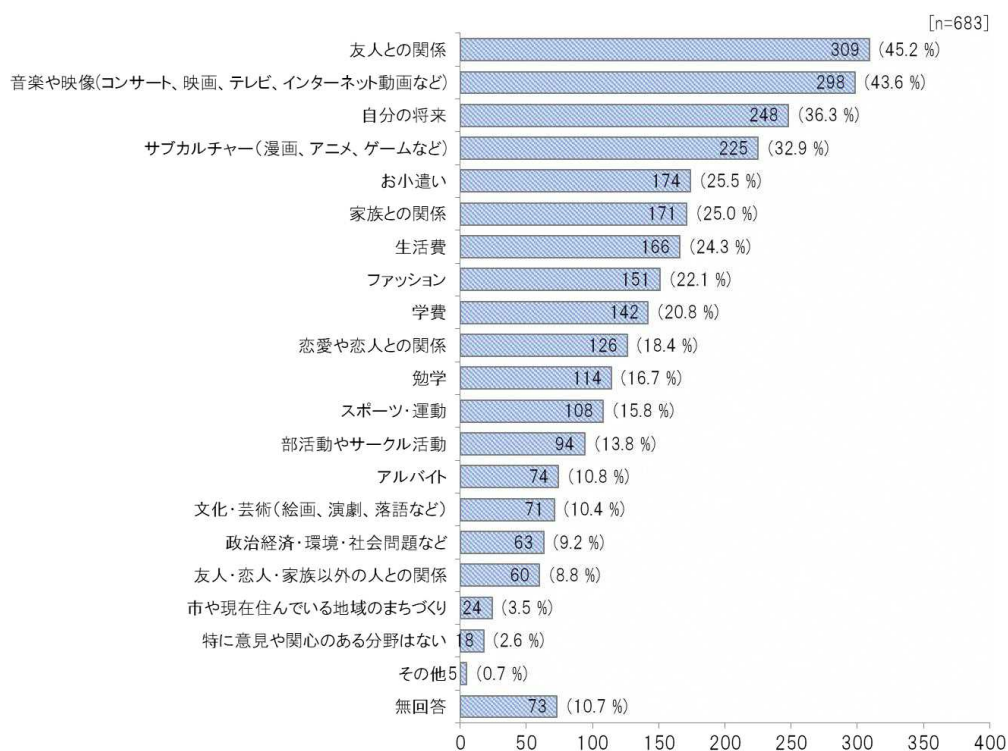
■中学生



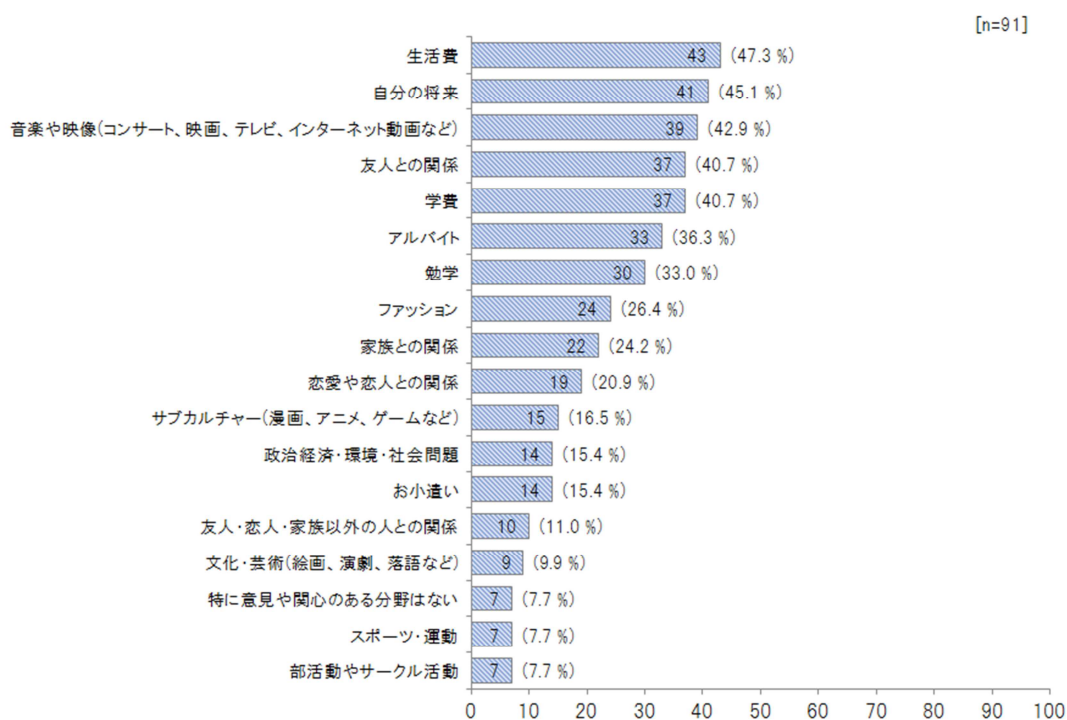
普段の生活の中で意見や関心を持つことは、高校生では、人間関係や娯楽、将来に関することの割合が高い一方で、大学生では生活費や学費などが上位にあがってきています。市のまちづくりに関心のある割合は低くなっています。

あなたは普段の生活の中で、どのようなことに意見や関心を持つことが多いですか。

■高校生



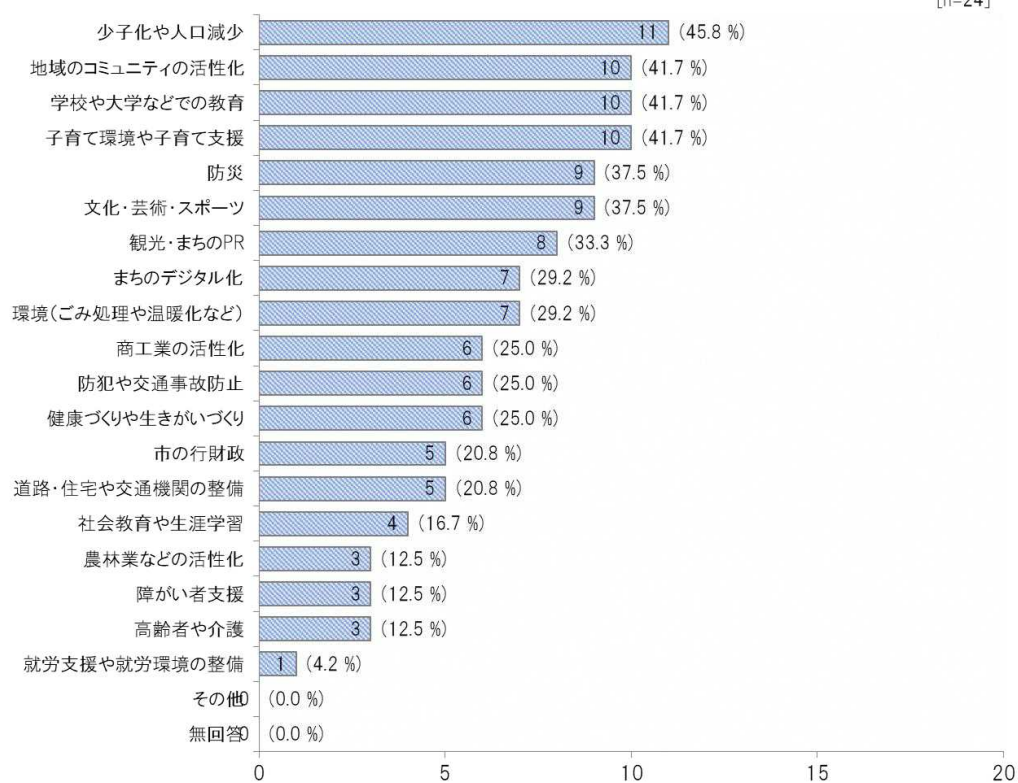
■大学生



市のまちづくりに関しては、どのような分野に意見や関心を持つことが多いですか。

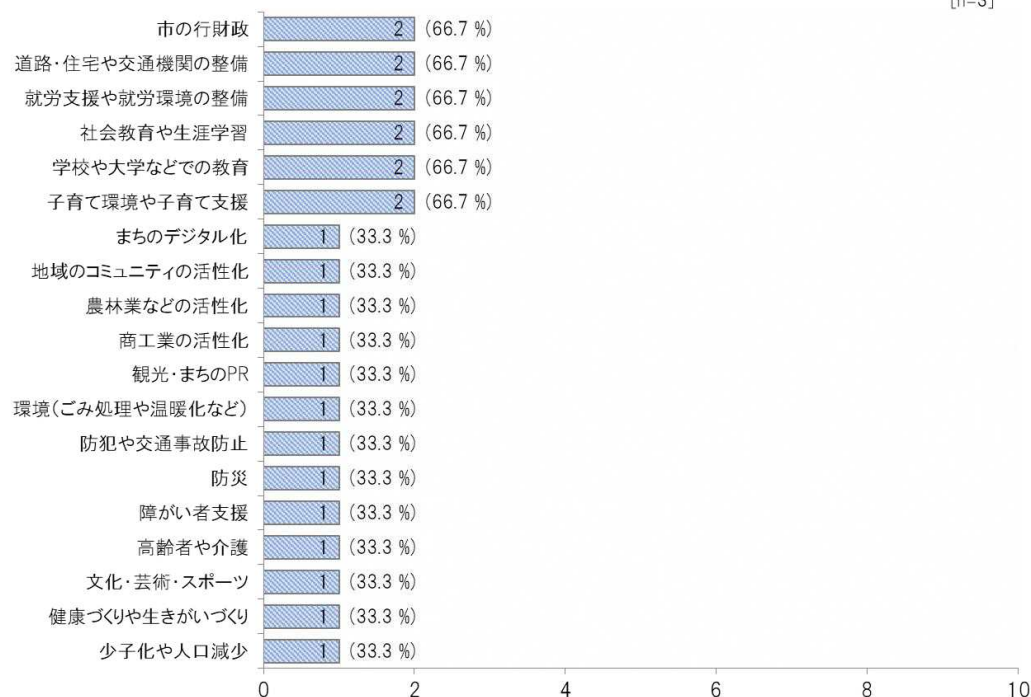
■高校生

[n=24]



■大学生

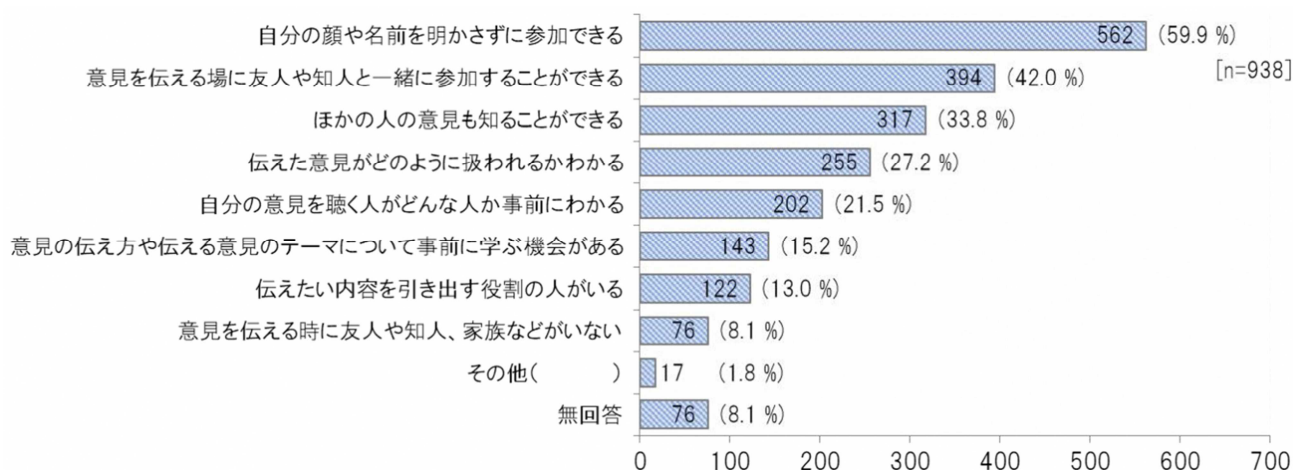
[n=3]



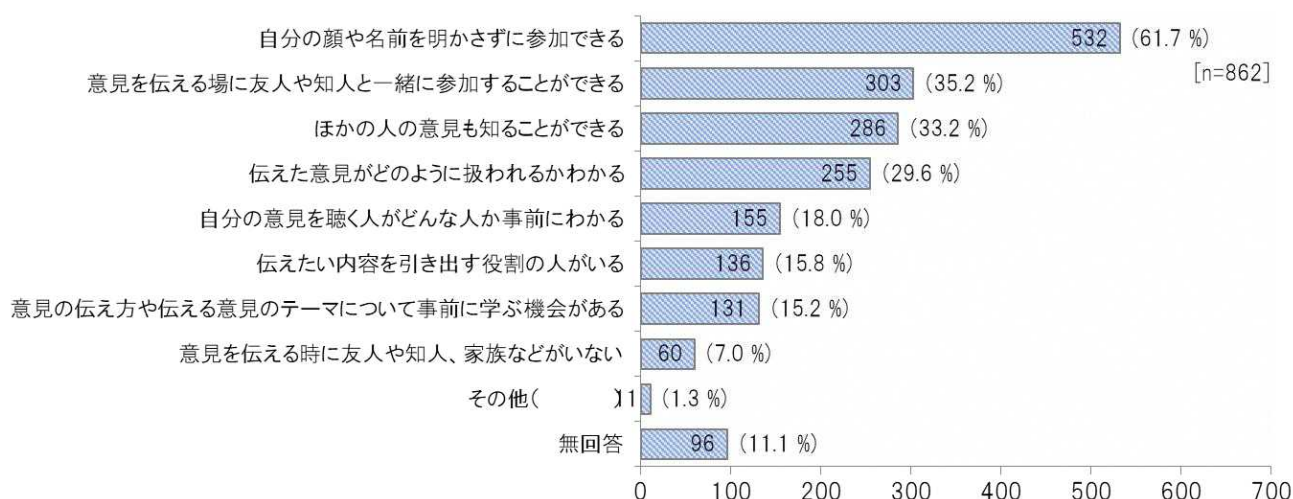
小学生から大学生まで、すべての年代において、自分の顔や名前を明かさずに参加できると意見を伝えやすいと感じています。

施設（公園や屋内の子ども向けの遊び場など）を建てる時、施設のルールを決める時などに、みなさんの意見を聞きたいと考えています。どのような工夫があれば、意見が伝えやすいと思いますか。

■小学生

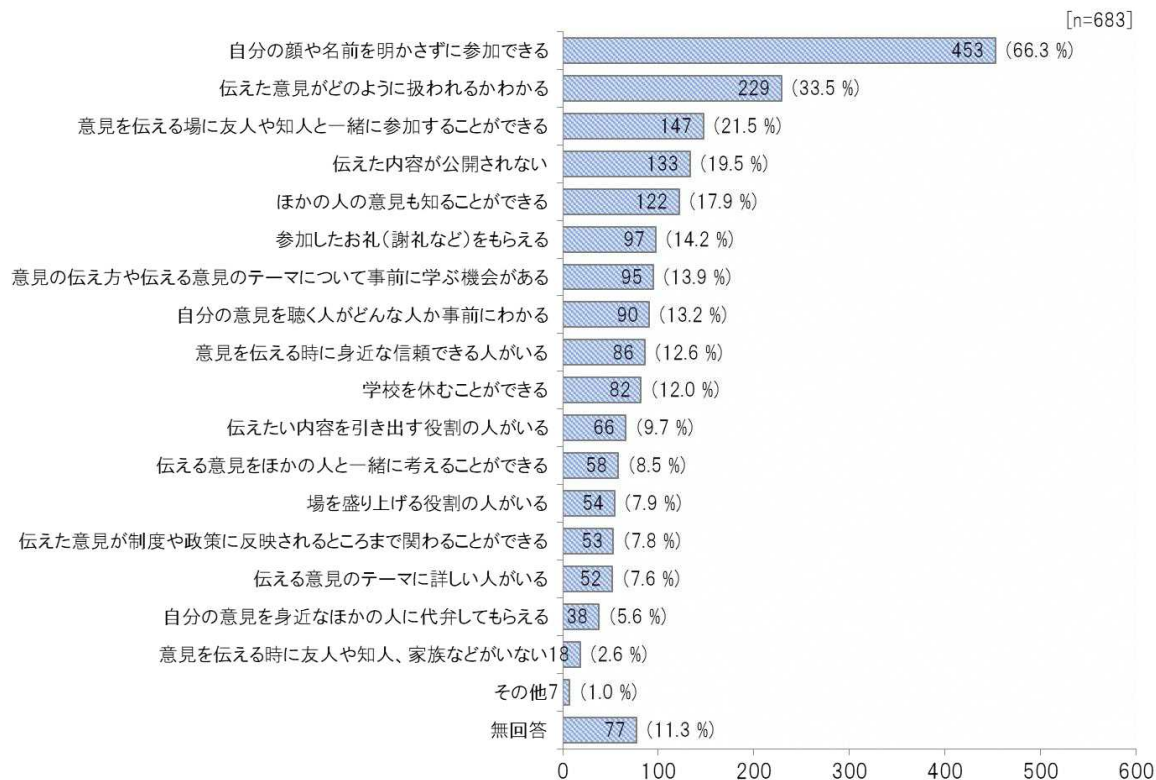


■中学生

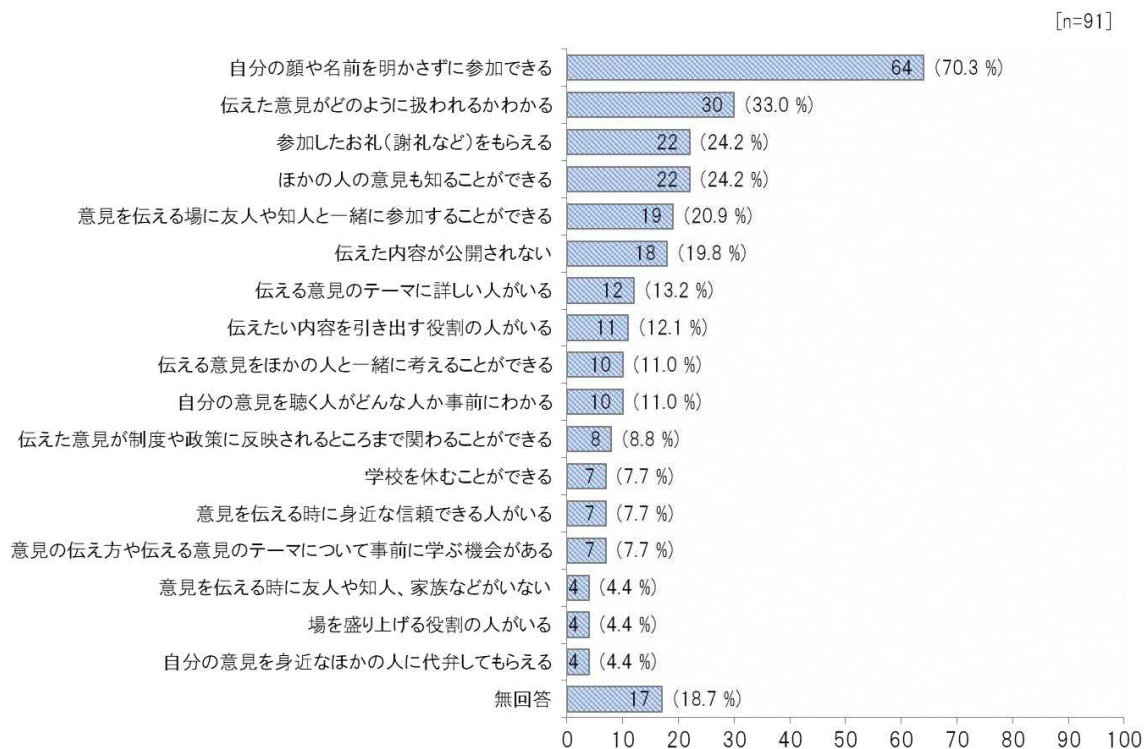


あなたが市に意見を伝えやすくなるためには、どのような工夫やルールが必要だと思いますか。

■高校生



■大学生

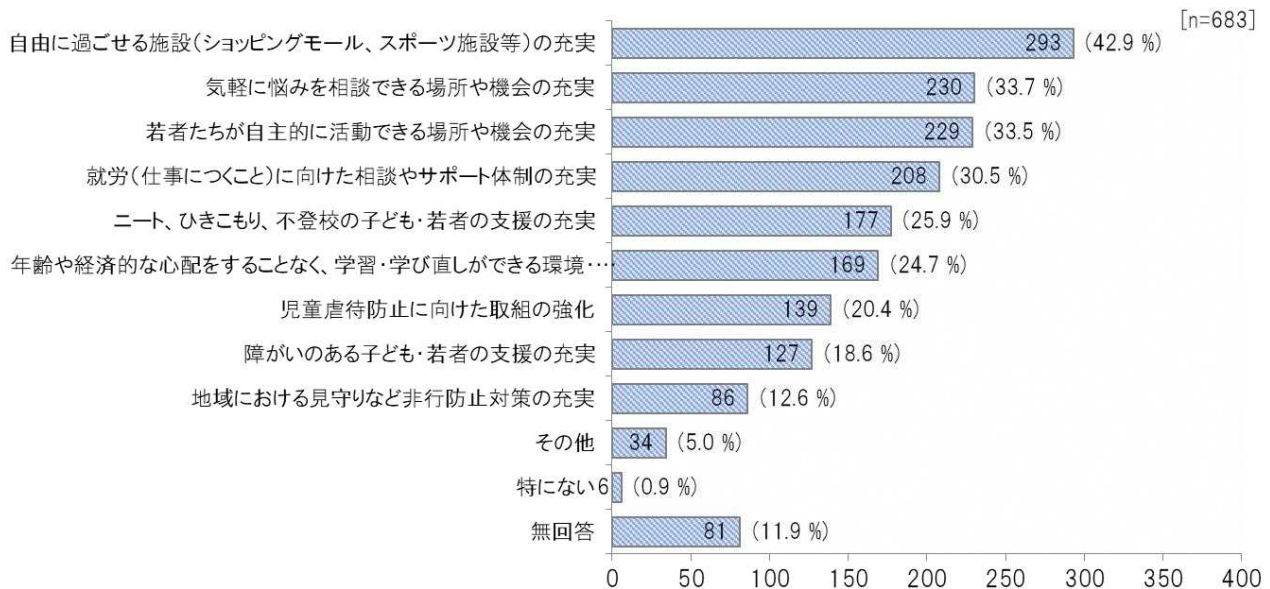


こども・若者の希望

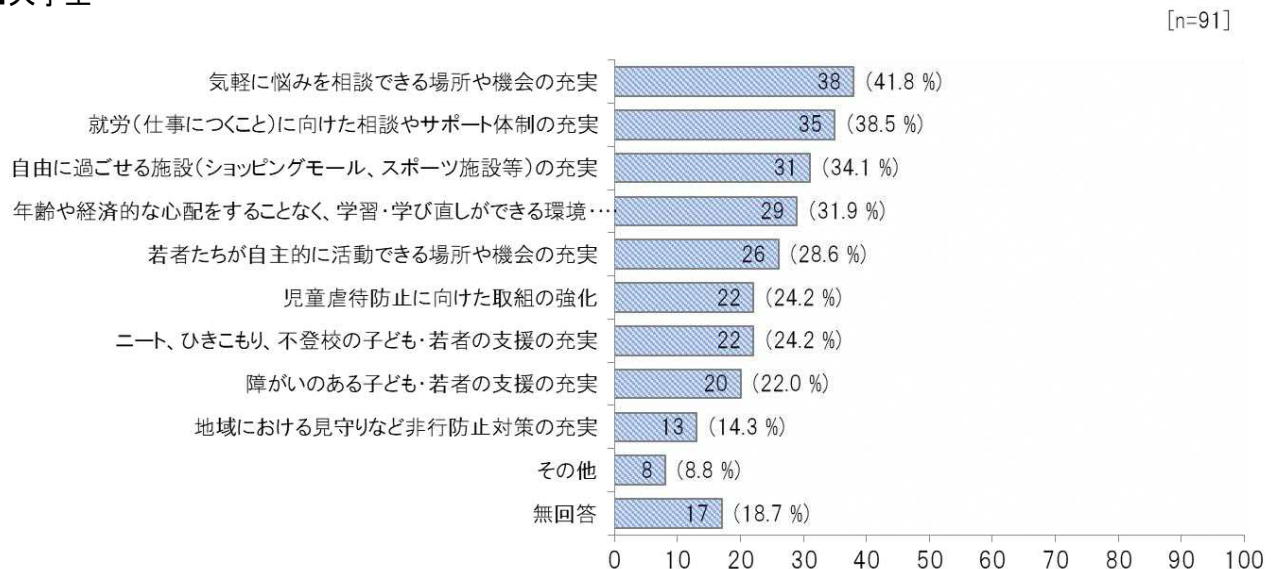
市の取組について、高校生では自由に過ごせる施設が最も求められている一方で、大学生では相談機会の充実が最も求められています。

子ども・若者にとって希望がもてる市となるために、市として、特に取り組むべきことは何だと思いますか。

■高校生



■大学生

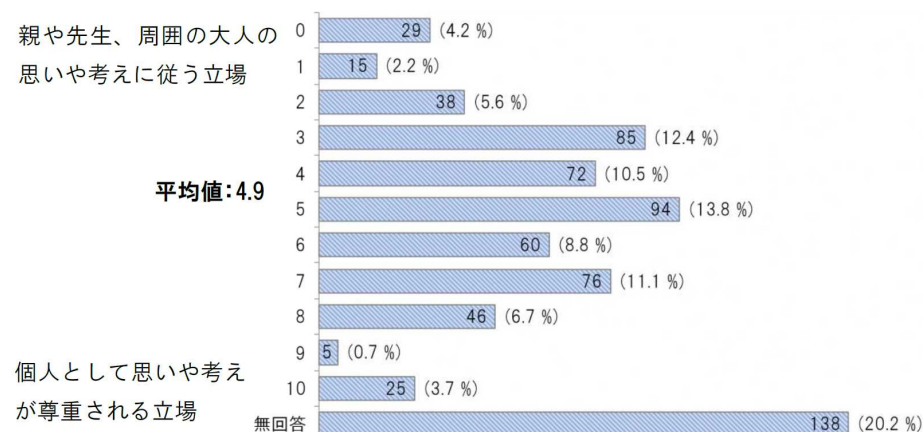


こども・若者の自己効力感

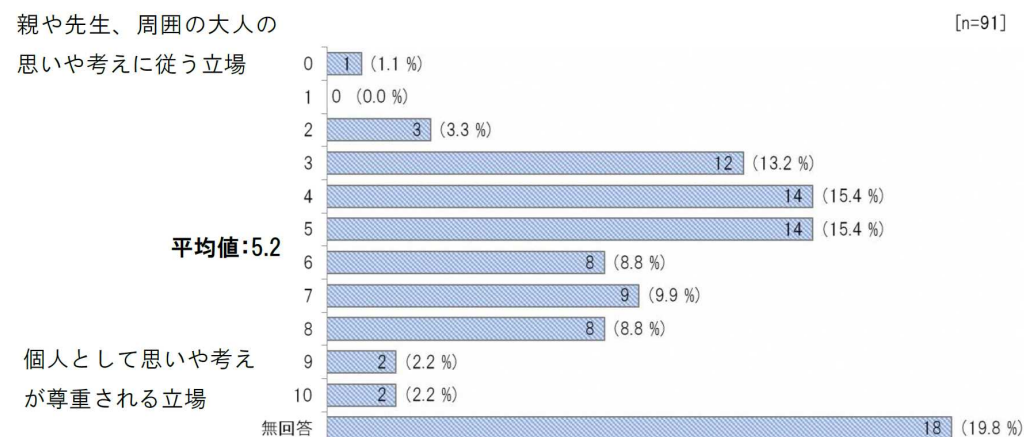
子どもや若者は周囲の大人に従う立場（0～4）と思う割合について、高校生、大学生ともに約3割となっています。自分のことを好ましく感じるかどうかについて、あてはまる割合は高校生で約5割、大学生で約3割となっています。

あなたは、今の子どもや若者は、どのような立場にいると思いますか。普段の生活を振り返ってお答えください。

■高校生



■大学生



あなたの主観で、あてはまる番号をひとつずつ選んで○印をつけてください。【自分のことを好ましく感じる】

凡例	非常に あてはまる	ある程度 あてはまる	どちらとも 言えない	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答
----	--------------	---------------	---------------	----------------	---------------	-----

■高校生

自分のことを好ましく感じる [n=683]

122 17.9%	213 31.2%	155 22.7%	58 8.5%	40 5.9%	95 13.9%
--------------	--------------	--------------	------------	------------	-------------

■大学生

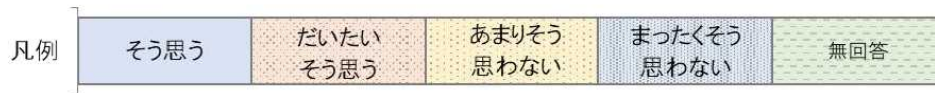
自分のことを好ましく感じる [n=91]

5 5.5%	24 26.4%	22 24.2%	10 11.0%	9 9.9%	21 23.1%
-----------	-------------	-------------	-------------	-----------	-------------

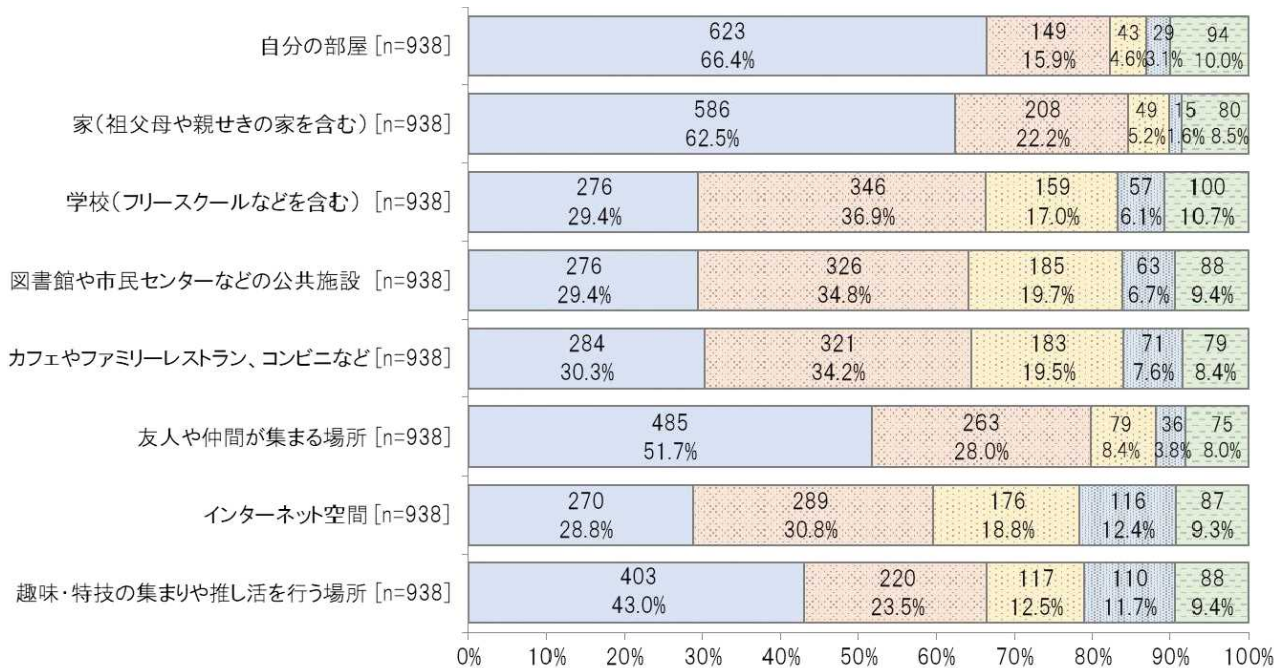
居場所について

現在の居場所について、どの年代においても家や学校など身近な場所の割合が高い一方で、公共施設についてはいずれの年代においても上位には入らない結果となっています。

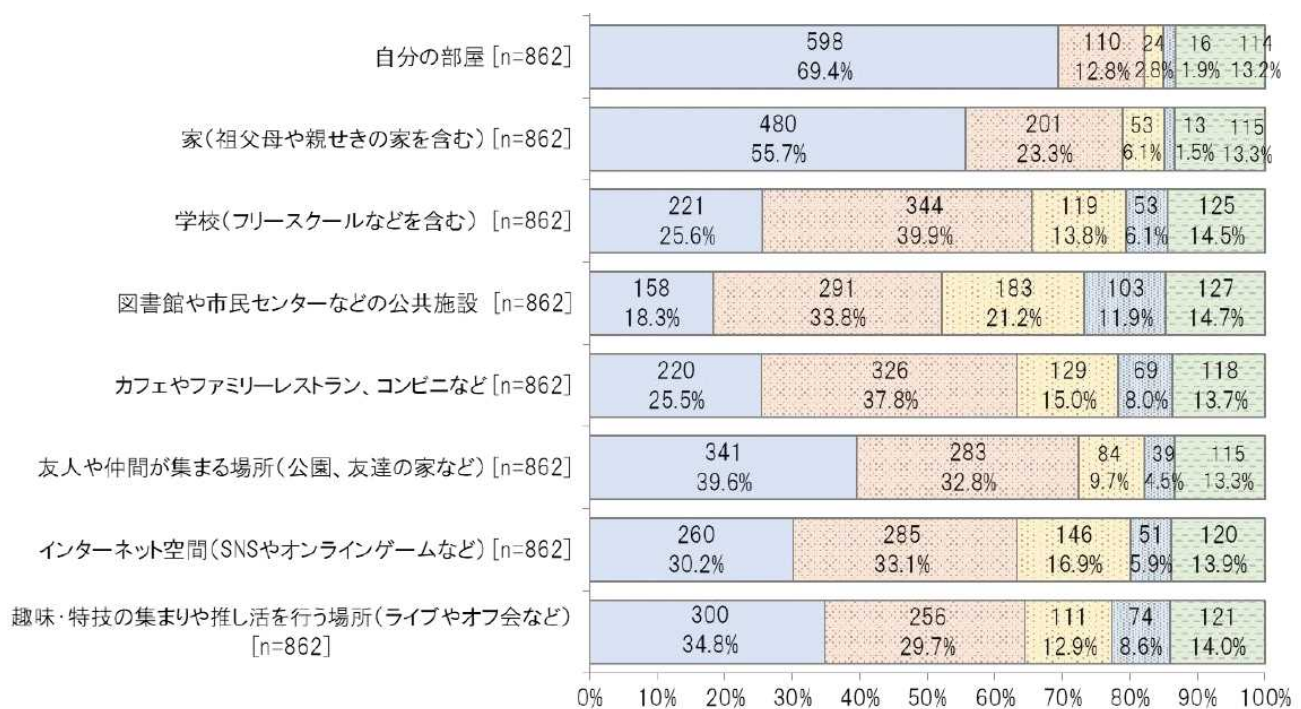
次の場所は、今のあなたにとっての居場所(ほっとできる場所、居心地のいい場所など)になっていますか。



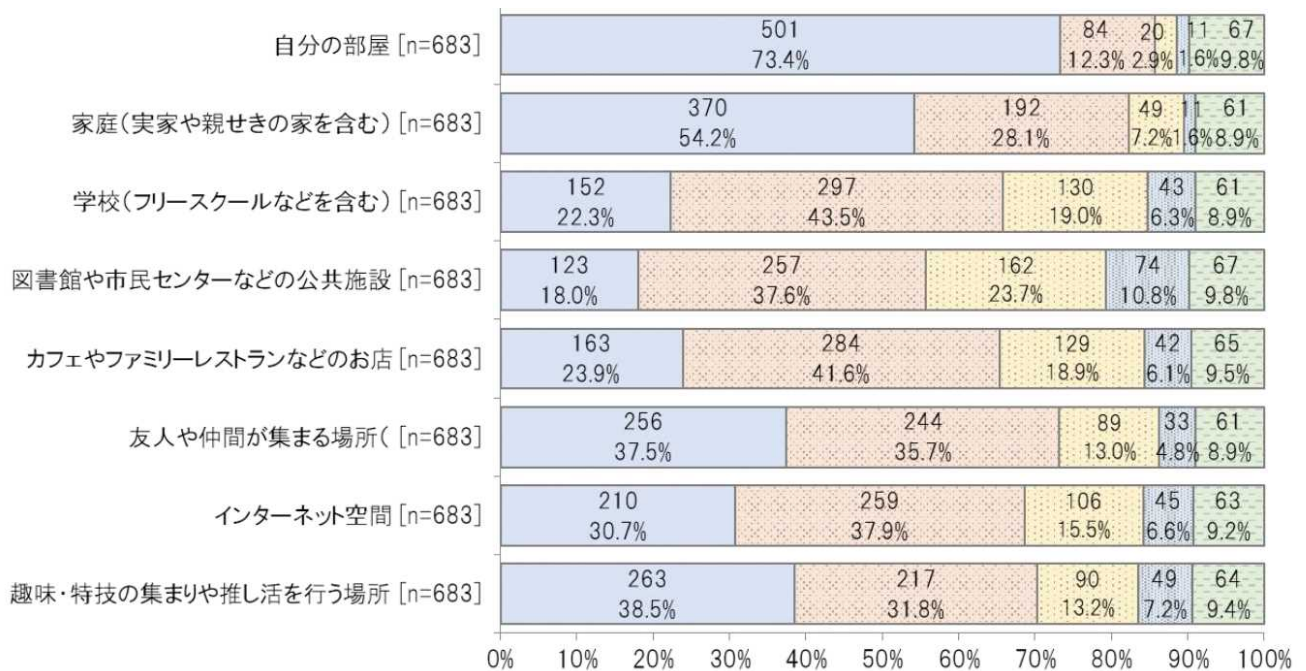
■小学生



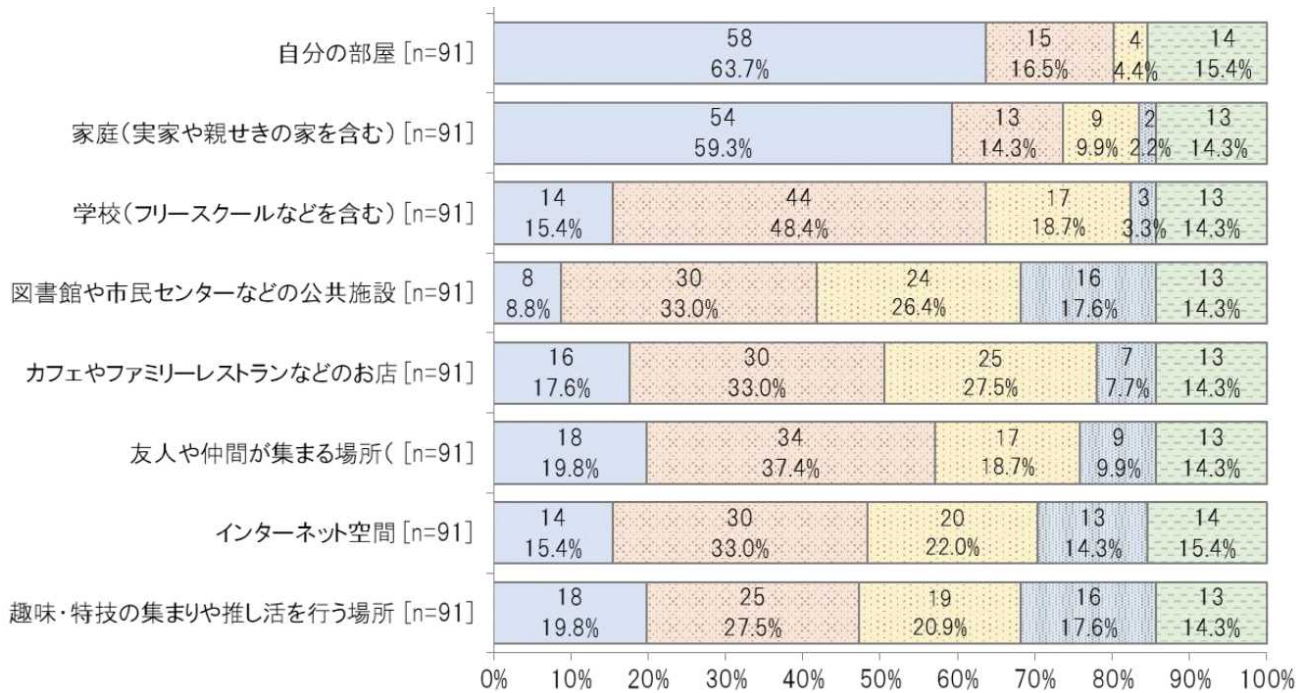
■中学生



■高校生



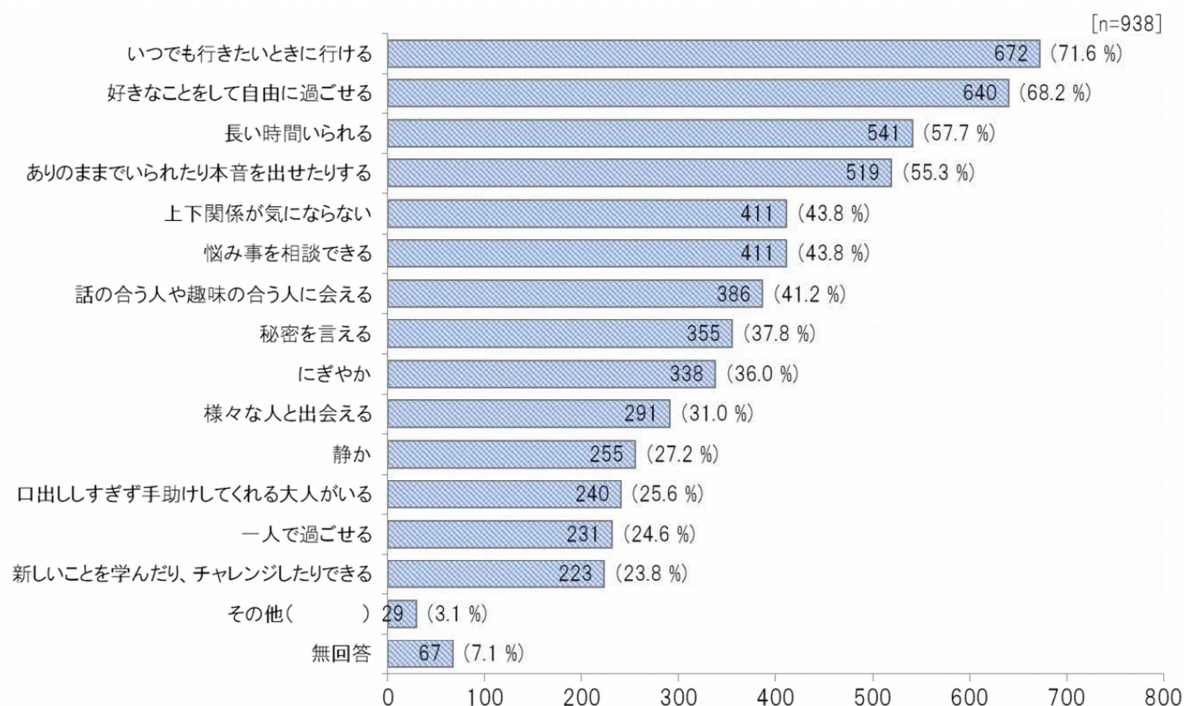
■大学生



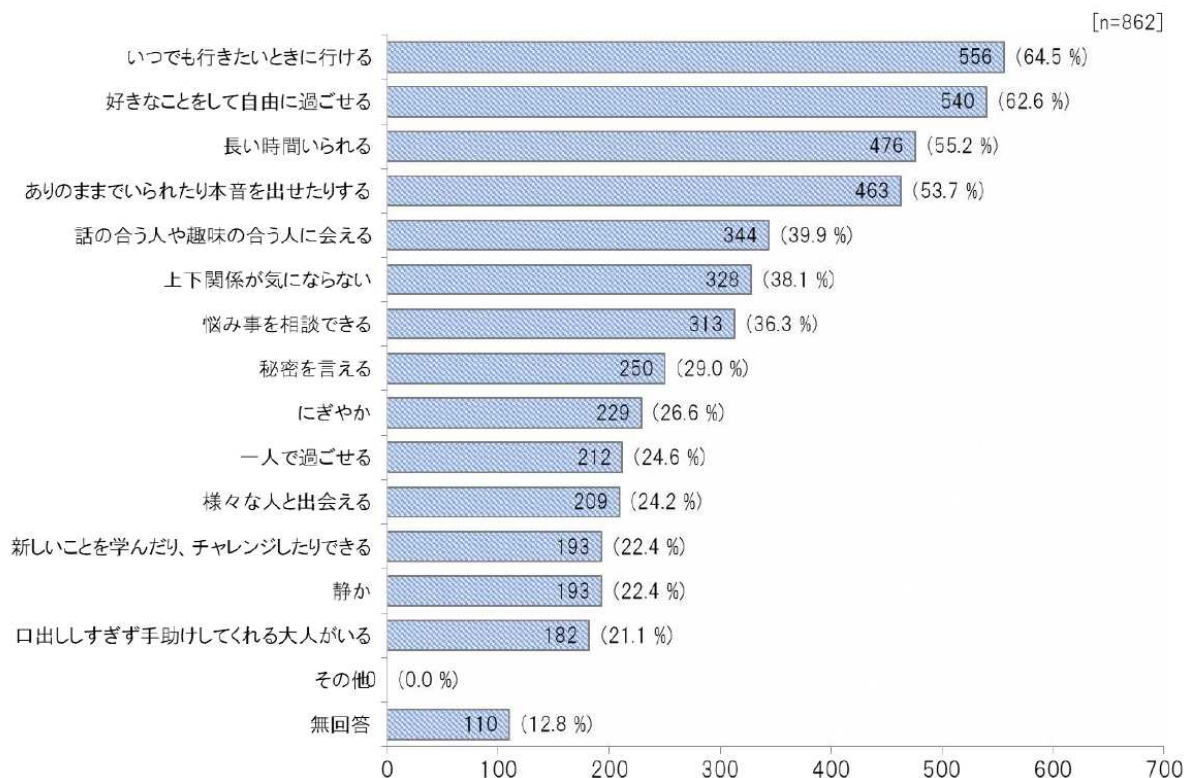
居場所の条件として、小学生から大学生までどの年代においても、行きたい時に往けること、自由に過ごせること、長時間いられることなどが重視されています。

あなたにとって、どのような場所であれば居場所になると思いますか。

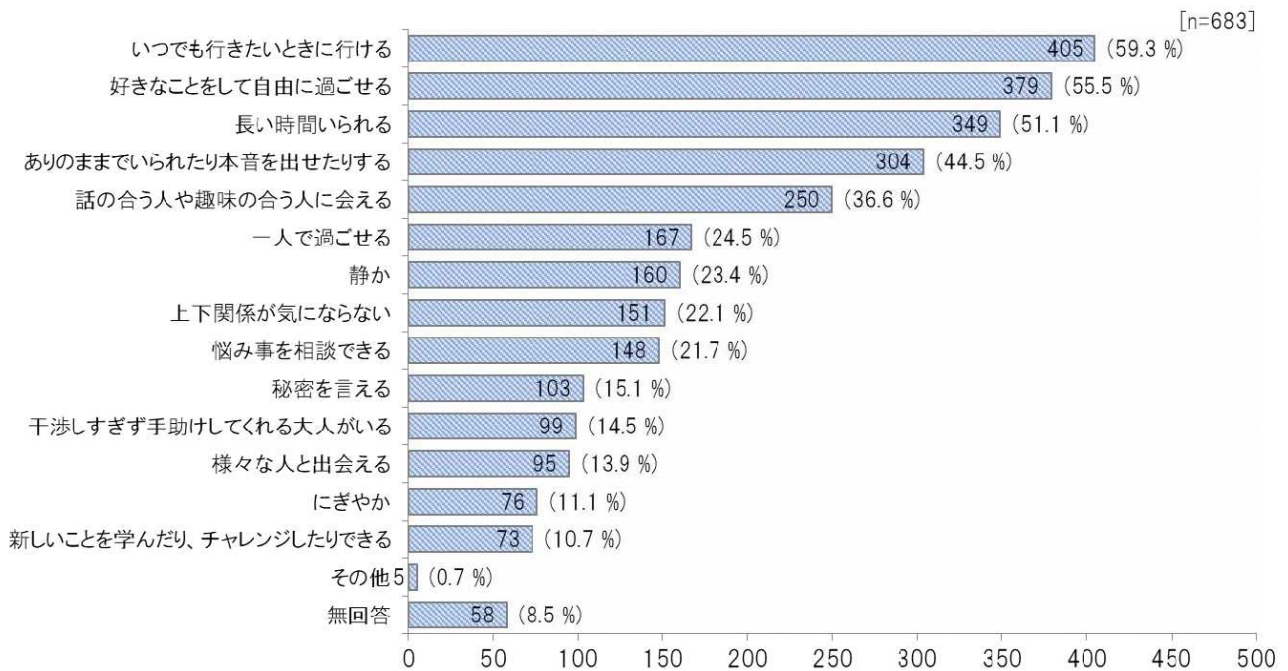
■小学生



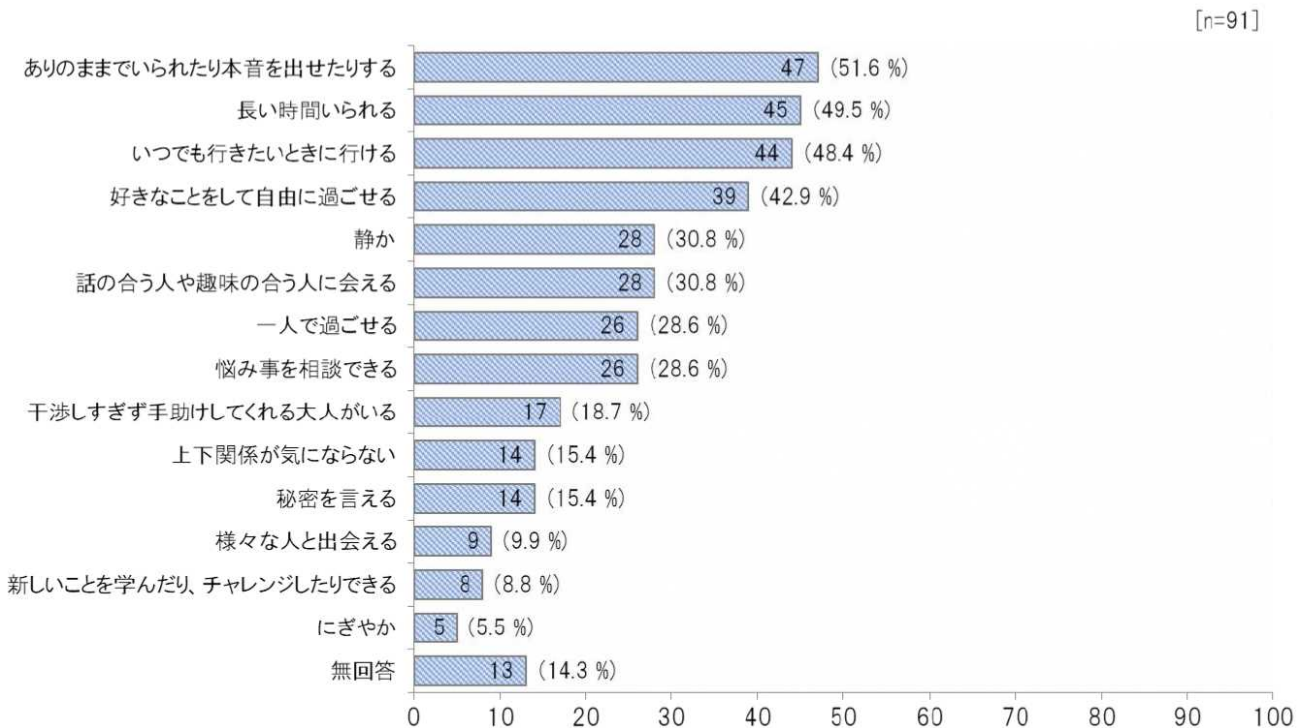
■中学生



■高校生



■大学生



若者の活躍について

地域における若者が活躍しやすい雰囲気について、雰囲気があると思う割合は高校生で 37.6%、大学生で 24.2%となっています。

地域活動への市民参加が盛んであると感じる割合については、高校生、大学生ともに「若者が活躍しやすい雰囲気がある」と回答した割合を上回っており、市民参加は活発であるものの、その中に若者が入っていくイメージが持てていないと考えられます。

新たなことに挑戦・成長するための機会があると感じている割合は、高校生で 45.5%、大学生で 27.5%となっています。

あなたの主観で、あてはまる番号をひとつずつ選んで○印をつけてください。【若者が活躍しやすい雰囲気がある】【地域活動への市民参加が進んでいる】【新たな事に挑戦・成長するための機会がある】

凡例	非常に あてはまる	ある程度 あてはまる	どちらとも 言えない	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	無回答
----	--------------	---------------	---------------	----------------	---------------	-----

■高校生

若者が活躍しやすい雰囲気がある [n=683]	93 13.6%	163 23.9%	242 35.4%	48 7.0%	40 5.9%	97 14.2%
地域活動への市民参加が盛んである [n=683]	110 16.1%	194 28.4%	206 30.2%	56 8.2%	24 3.5%	93 13.6%
新たな事に挑戦・成長するための機会がある [n=683]	113 16.5%	198 29.0%	213 31.2%	45 6.6%	18 2.6%	96 14.1%

■大学生

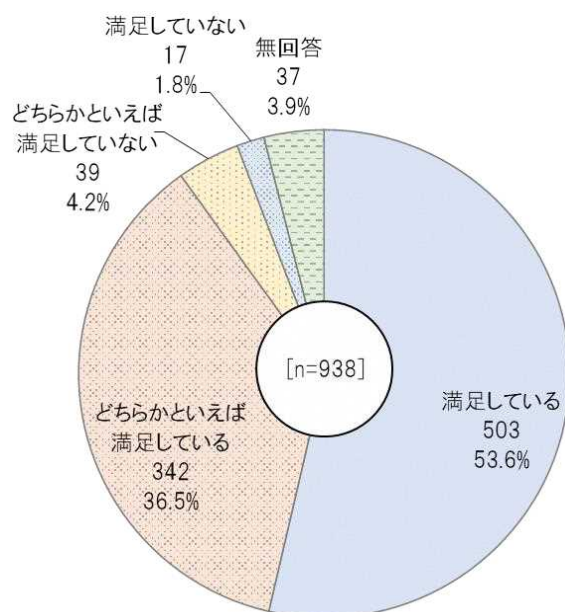
若者が活躍しやすい雰囲気がある [n=91]	2 2.2%	20 22.0%	38 41.8%	10 11.0%	21 23.1%	
地域活動への市民参加が盛んである [n=91]	4 4.4%	22 24.2%	30 33.0%	12 13.2%	2 2.2%	21 23.1%
新たな事に挑戦・成長するための機会がある [n=91]	2 2.2%	23 25.3%	32 35.2%	12 13.2%	1 1.1%	21 23.1%

生活の満足度

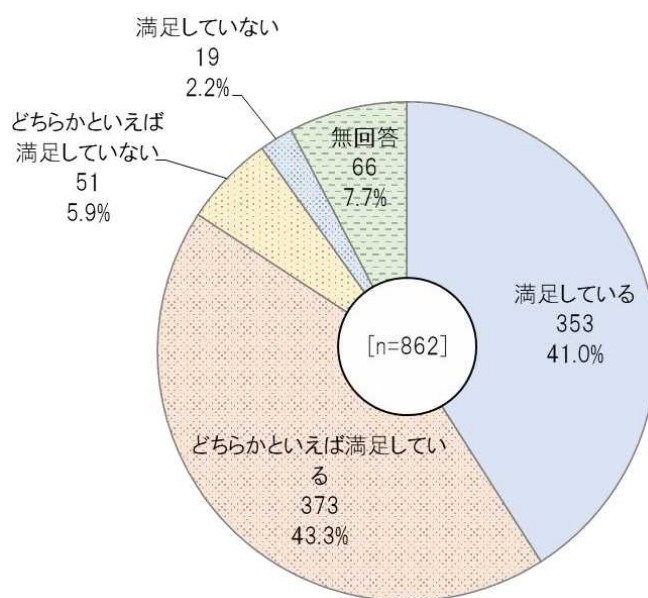
今の暮らしへの満足について、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、小学生では90.1%、中学生では84.3%、高校生は83.9%、大学生は78.1%となっています。

今の暮らしに満足していますか。

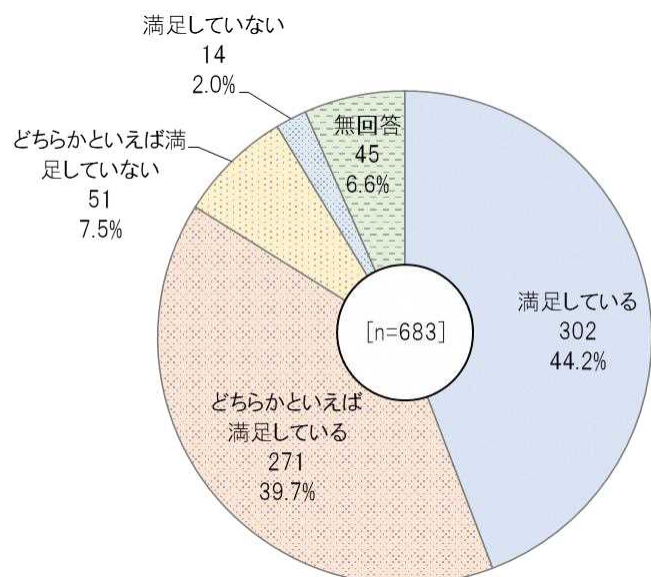
■小学生



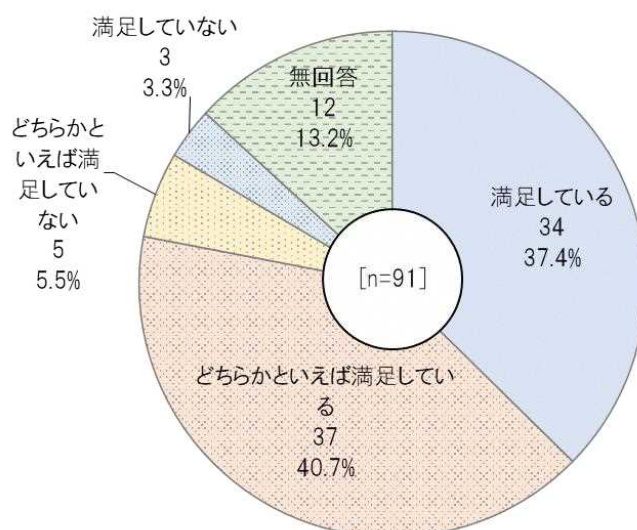
■中学生



■高校生



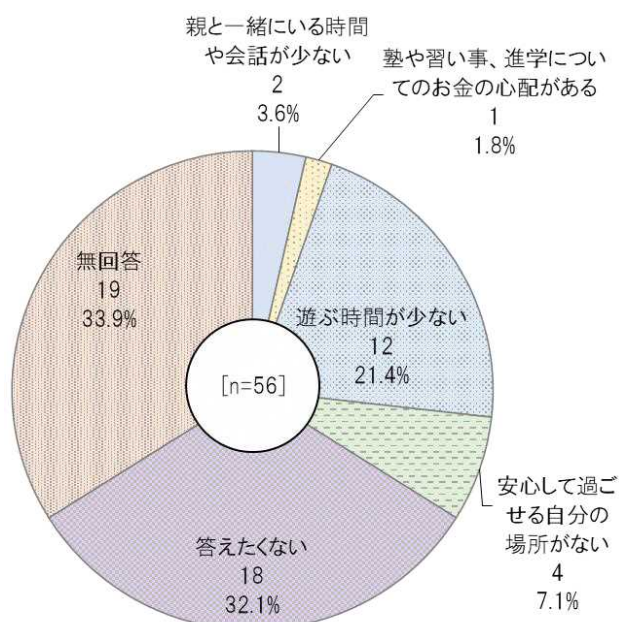
■大学生



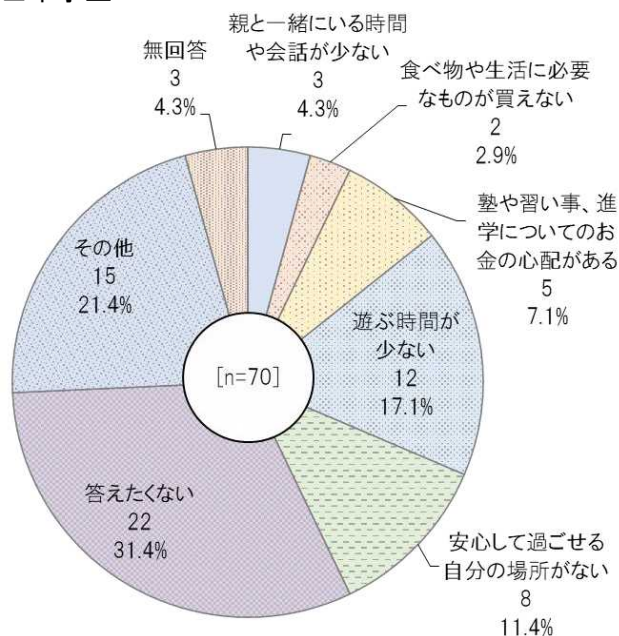
満足していない理由について、小学生から高校生までは「答えたくない」の割合が高くなっています。中学生、高校生では、「答えたくない」に次いで「遊ぶ時間が少ない」の割合が高くなっています。

満足していない理由は、何でしょうか。

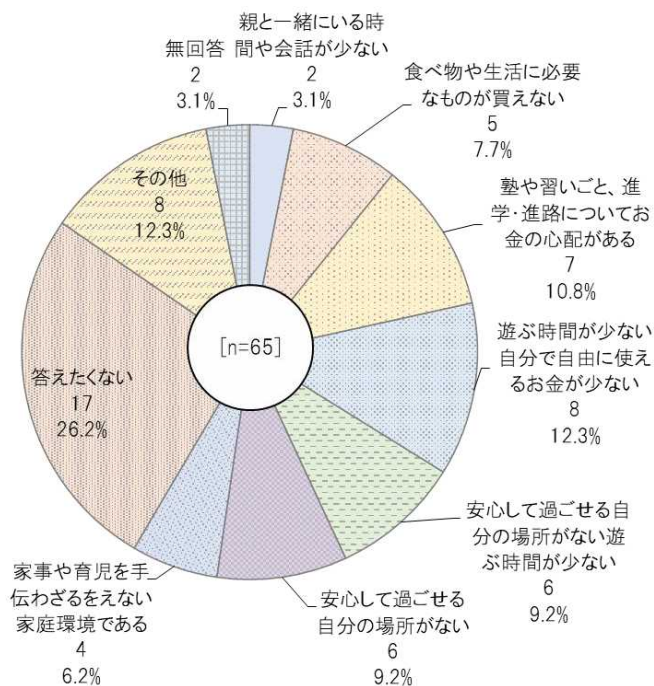
■小学生



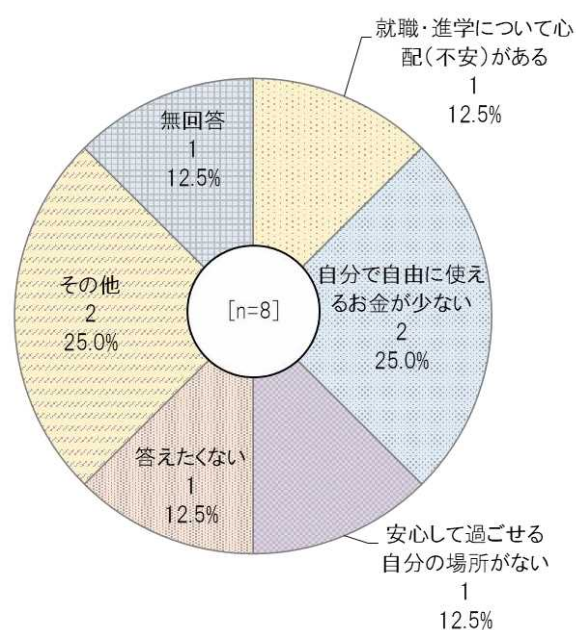
■中学生



■高校生



■大学生



結婚について

満 20 歳以上 40 歳未満の若者の結婚の有無について、「結婚している」が 60.7%、「結婚していないまたは、結婚したが、離別・死別した」が 37.3%となっています。

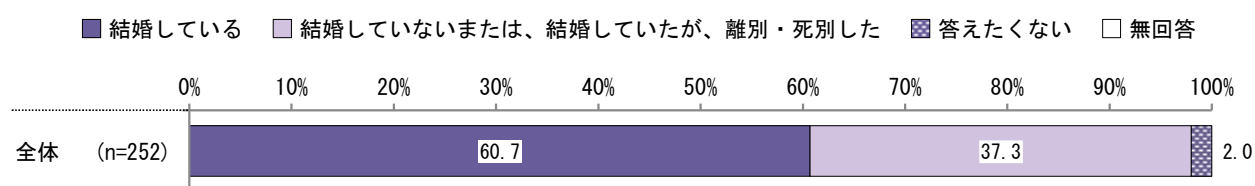
性別にみると、「結婚している」との回答は男性が女性を下回っています。

年代別にみると、「結婚している」との回答は 30 歳～39 歳で 6 割以上と高くなっています。

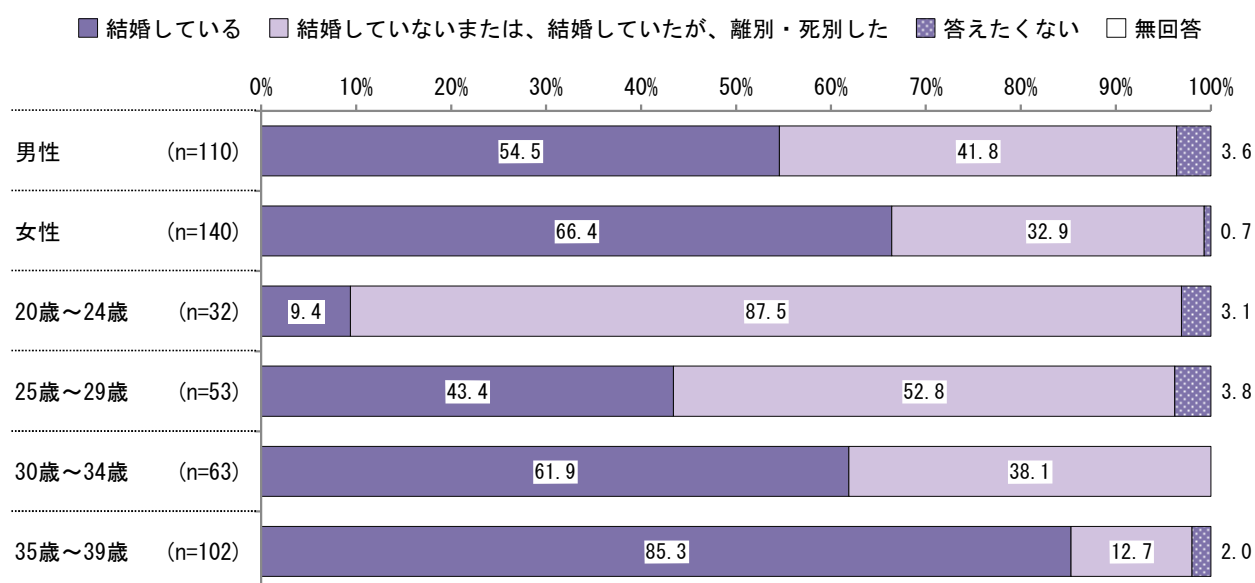
世帯年収別にみると、『結婚している』との回答は 300 万円未満では、300 万円以上に比べて 1 割未満と相当低くなっています。

あなたは結婚をしていますか。(事実婚を含む。)

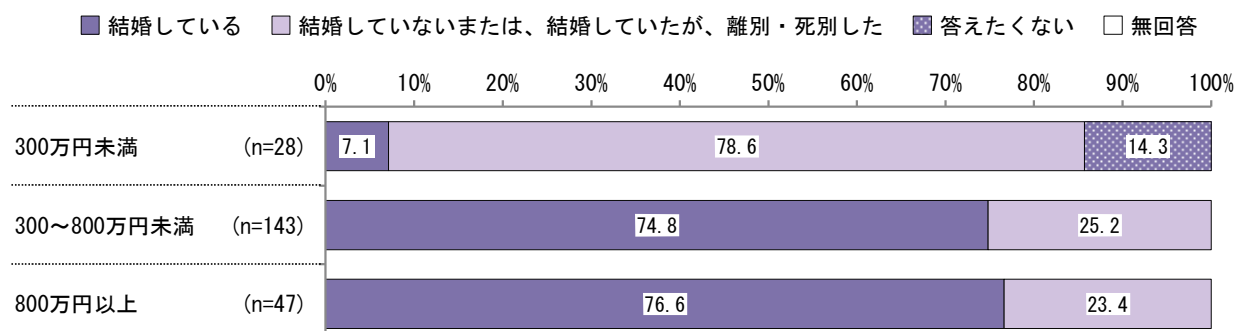
■全体



■性別・年代別



■世帯年収別



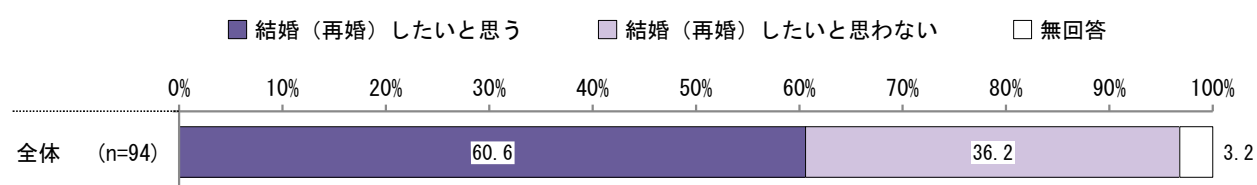
結婚に関してどう思うかについて、「結婚（再婚）したいと思う」が60.6%、「結婚（再婚）したいと思わない」が36.2%となっています。

性別にみると、「結婚（再婚）したいと思う」との回答は男性が女性を下回っています。

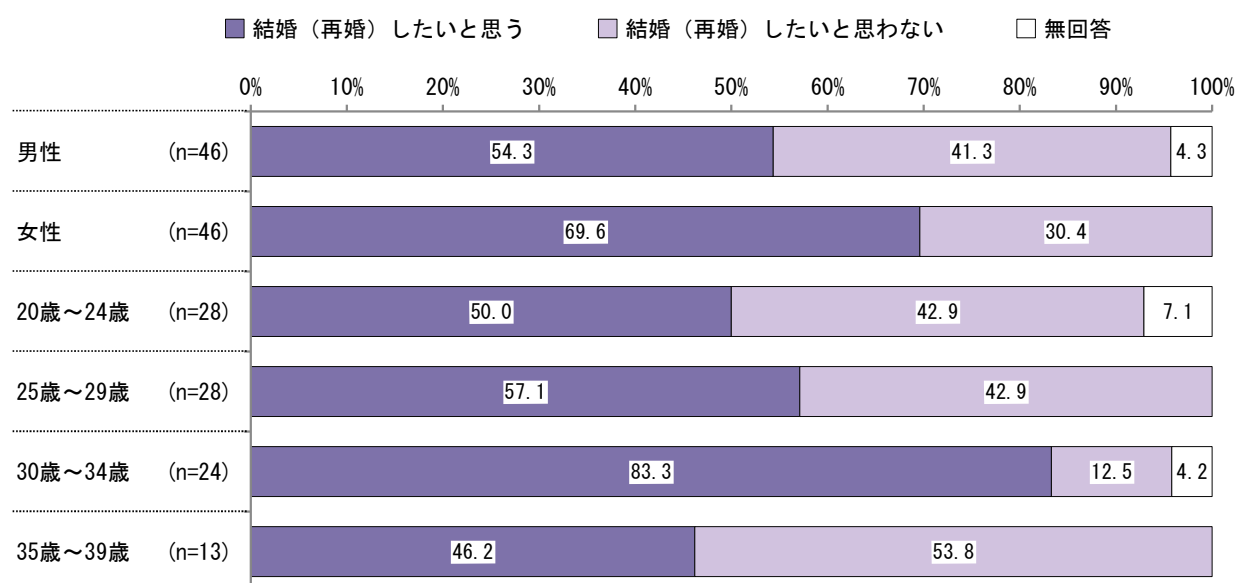
年代別にみると、「結婚（再婚）したいと思う」との回答は30～34歳で8割台半ばと高くなっています。

あなたは結婚(再婚)についてどう思いますか。

■全体

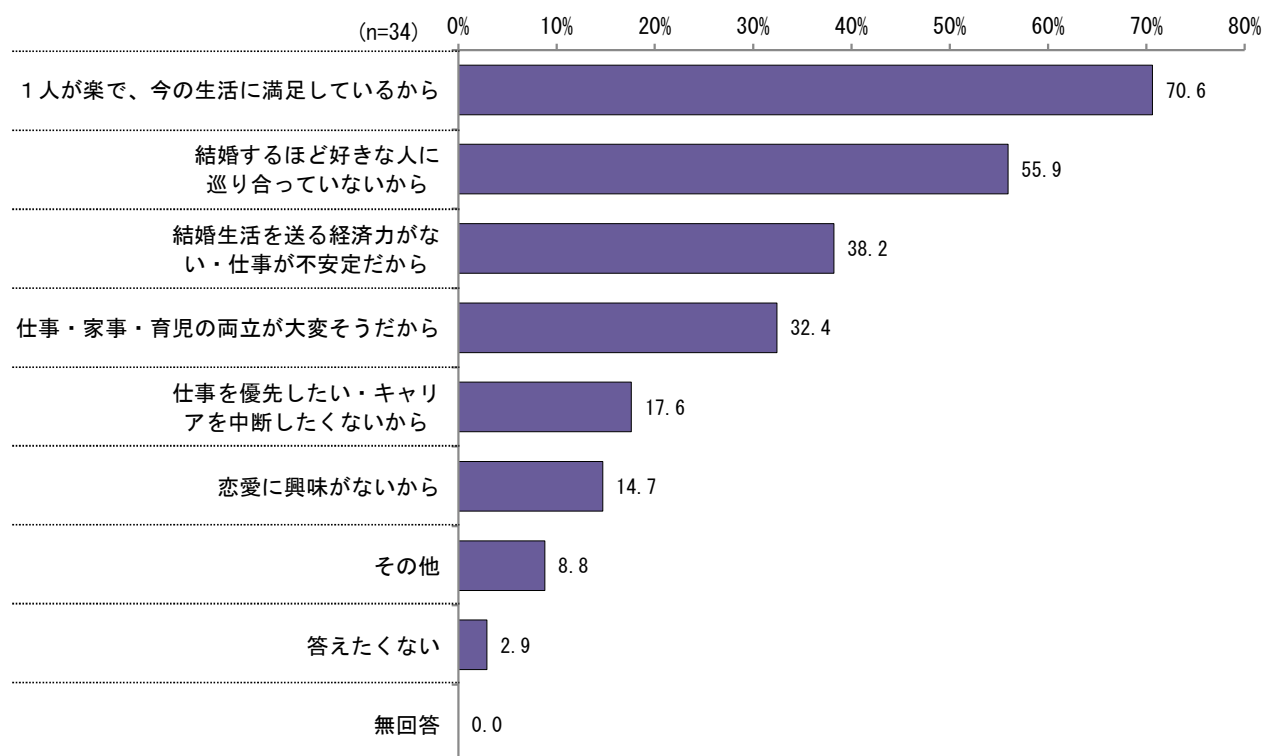


■性別・年代別



結婚したいと思わない理由について、「1人が楽で、今の生活に満足しているから」との回答が70.6%と最も高く、次いで「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」などの順となっています。

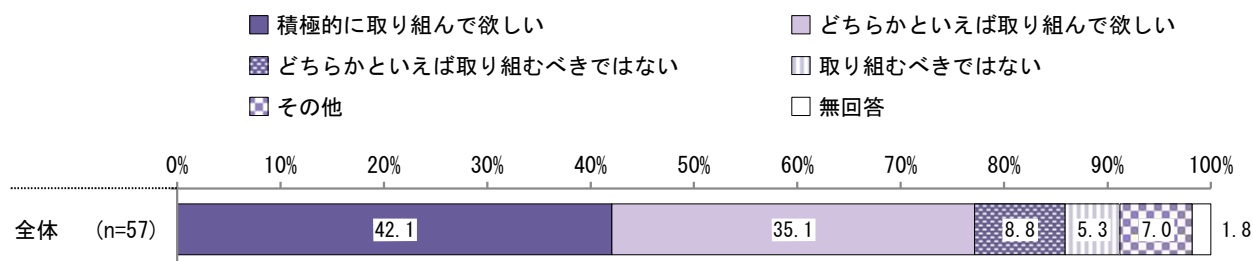
あなたが結婚(再婚)したいと思わない理由は何ですか。



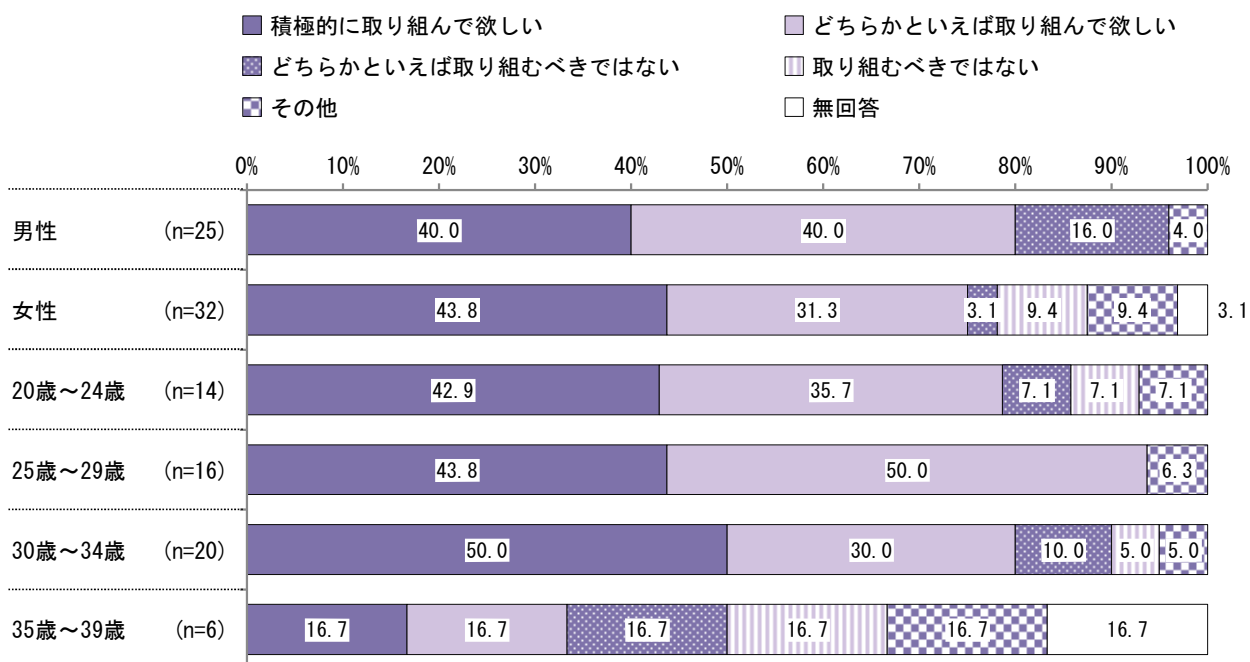
市の結婚支援事業について、『取り組んで欲しい（「積極的に取り組んで欲しい」＋「どちらかといえば取り組んで欲しい」）』との回答が77.2%となっています。

あなたは、市に結婚支援に関する事業に取り組んでほしいですか。

■全体

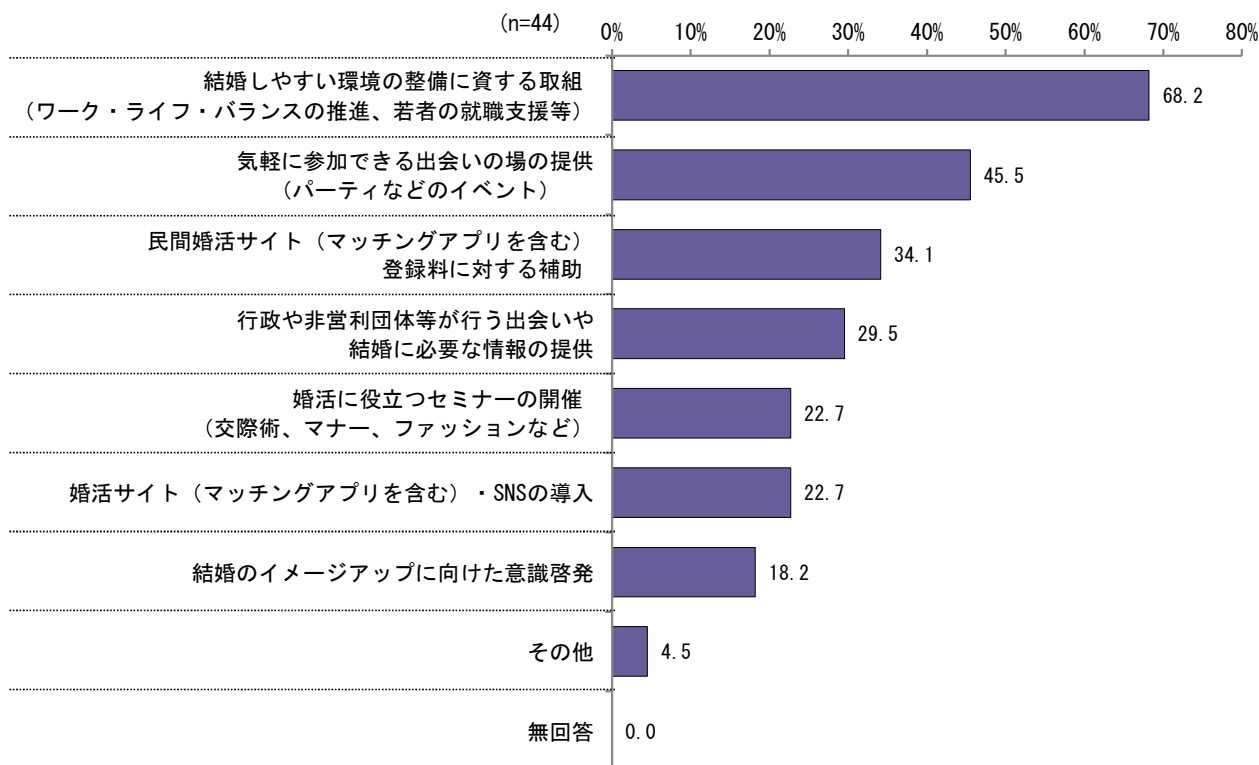


■性別・年代別



出会い・結婚支援に関して市へ期待することについて、「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ワーク・ライフ・バランスの推進、若者の就職支援等）」との回答が68.2%と最も高く、次いで「気軽に参加できる出会いの場の提供」、「民間婚活サイト（マッチングアプリを含む）登録料に対する補助」などの順となっています。

出会い・結婚にかかわる支援として、どのようなことを市に期待しますか。

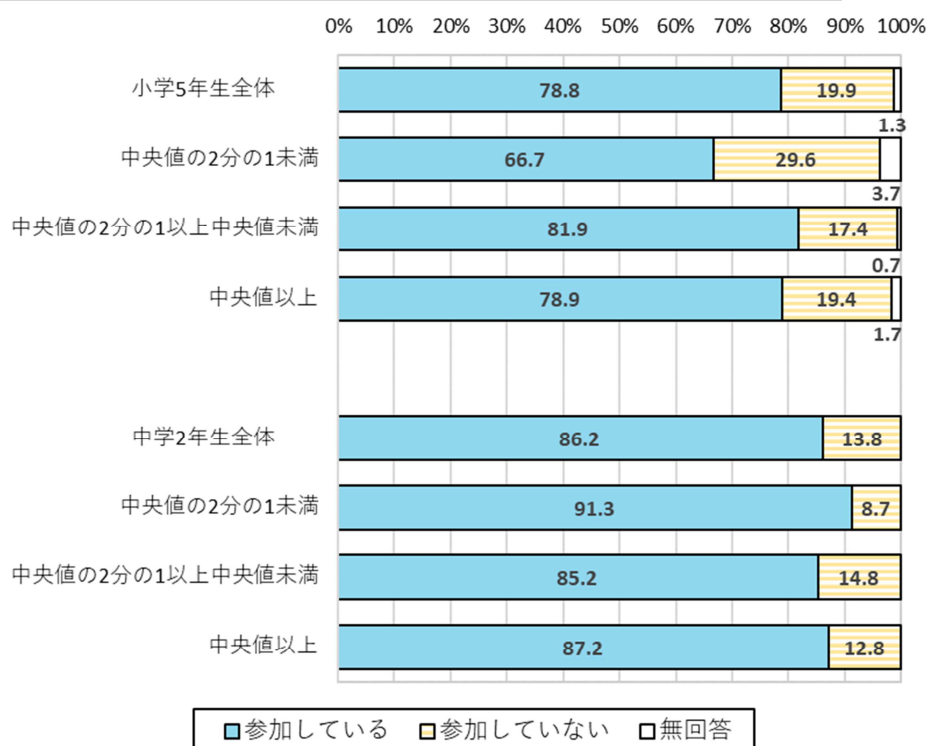


こどもの貧困をめぐる状況

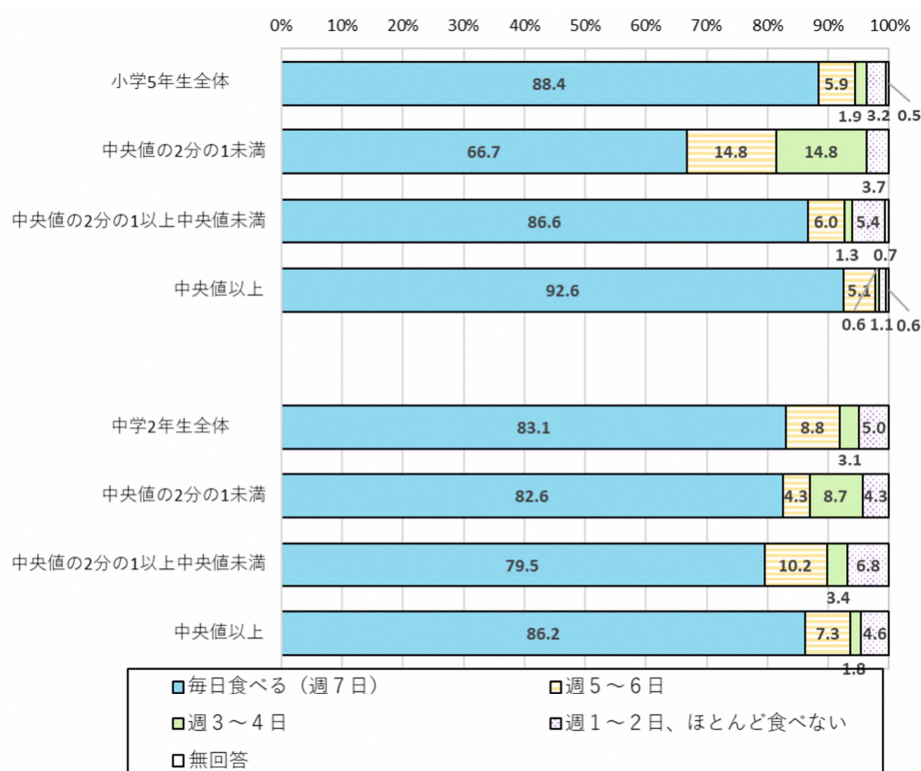
こどもの校外活動・生活習慣と世帯収入の関連

校外活動について、小学5年生では、等価世帯収入の水準が低い世帯ほどこどもがクラブ活動に参加している割合が低くなっています。生活習慣について、等価世帯収入の水準が低い世帯では、そうでない世帯と比較して、こどもが朝食を食べる割合が低くなっており、就寝時刻が一定である割合についても等価世帯収入の水準が低い世帯ほど低くなっています。

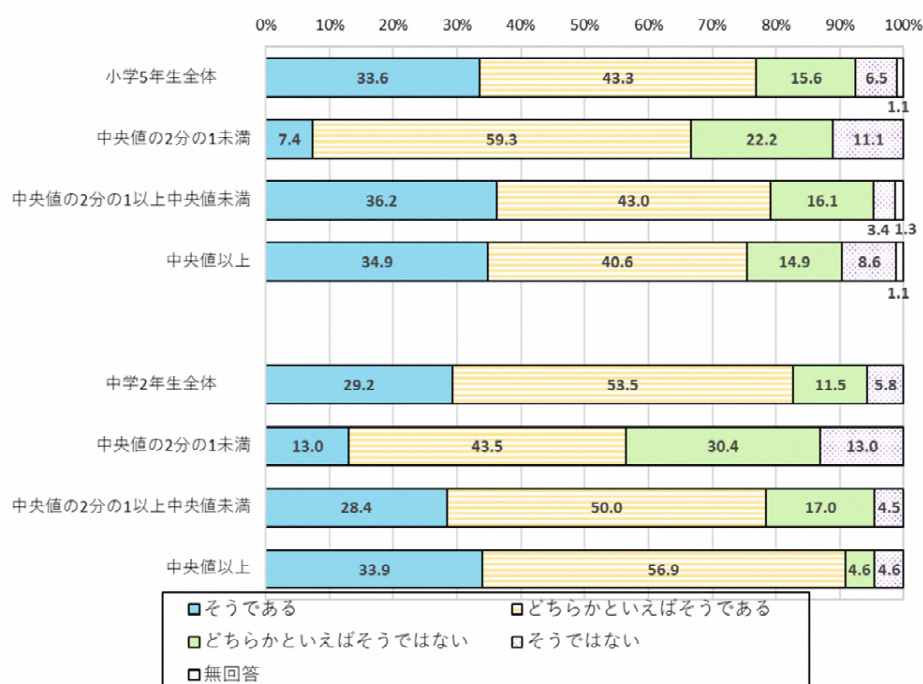
あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校のクラブ活動に参加していますか。



あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。【朝食】



あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。

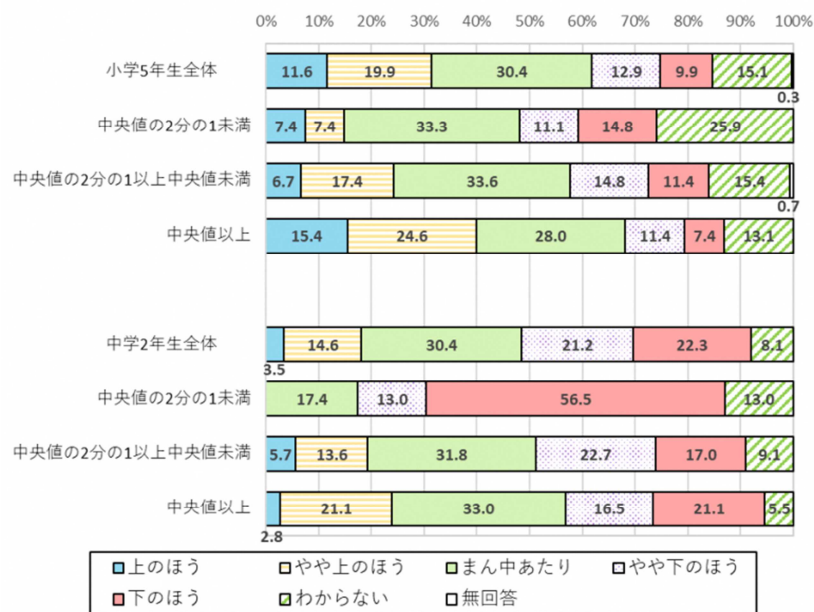


こどもの学習状況と世帯収入の関連

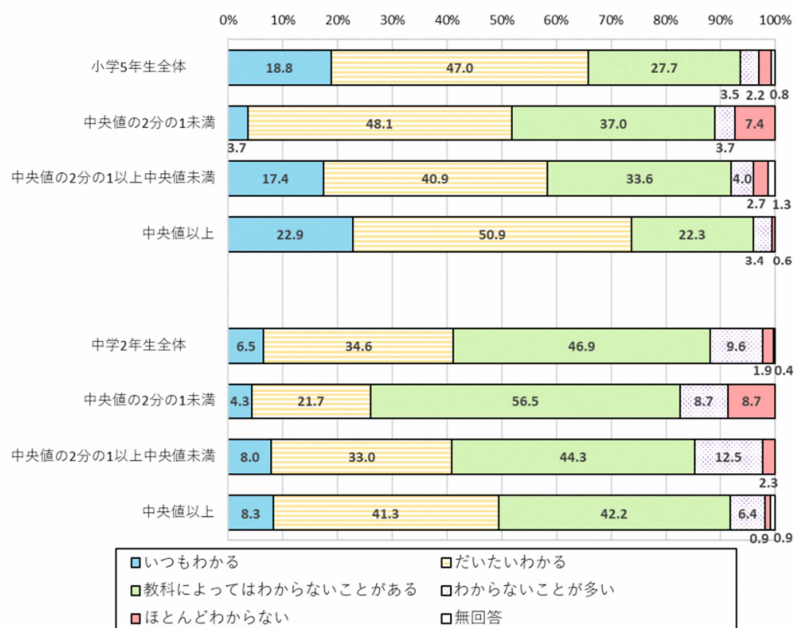
学校の成績について、小学5年生、中学2年生ともに、等価世帯収入の水準が低い世帯ほど「上の方」「やや上のほう」の割合が低くなっています。特に中学2年生では、中央値の2分の1未満とそれ以上で「下の方」の割合の差が大きく、中央値の2分の1未満では6割近くが「下の方」と回答しています。

学校の授業の理解度についても、小学5年生、中学2年生ともに、等価世帯収入の水準が低い世帯ほど「わからない」の割合が高くなっています。

あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。



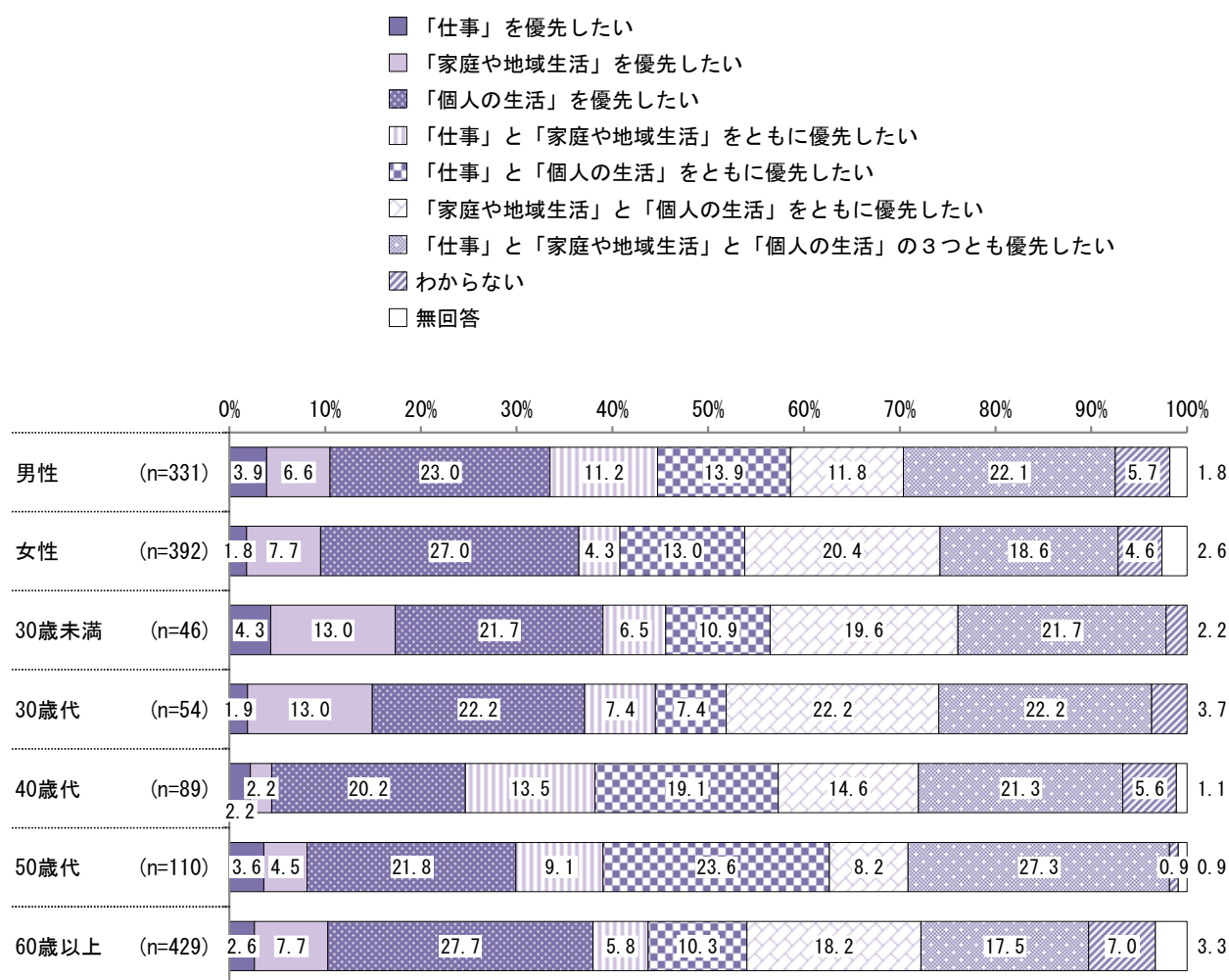
あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。



ワーク・ライフ・バランスについて

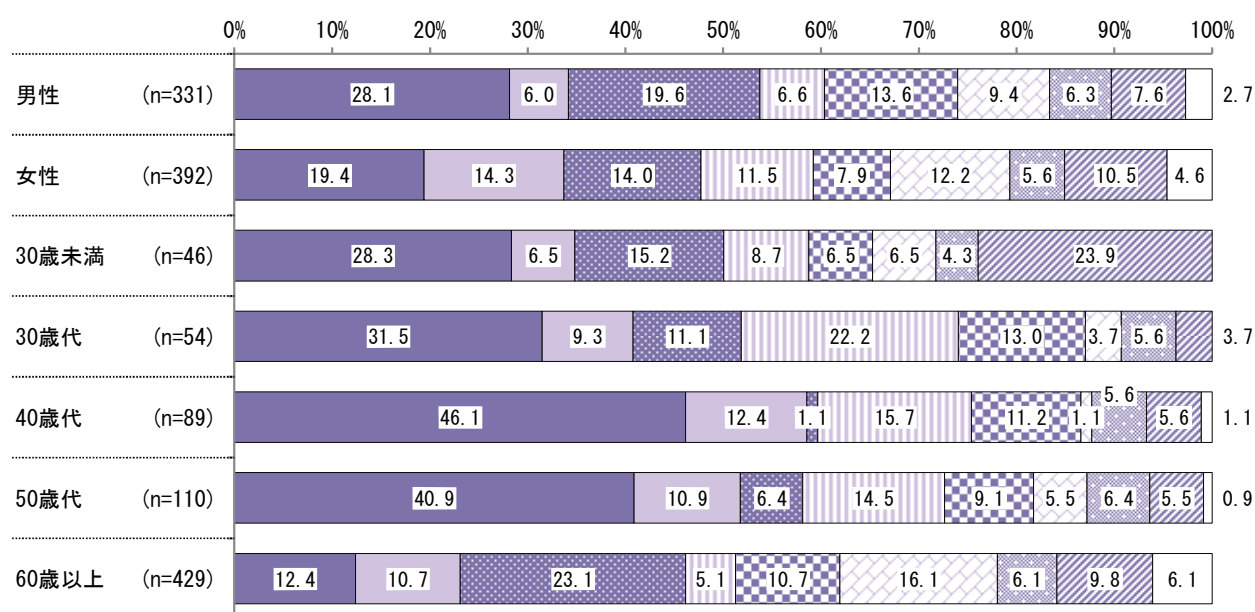
「仕事」、「家庭や地域生活」、「個人の生活」のバランスについて、「『個人の生活』を優先したい」「『仕事』と『家庭や地域生活』と『個人の生活』の3つとも優先したい」の割合がどの年代においても高い一方で、現状では「『仕事』を優先している」の割合が高くなっています。

「仕事」、「家庭や地域生活」、「個人の生活」のバランスについて、あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれお答えください。【希望】



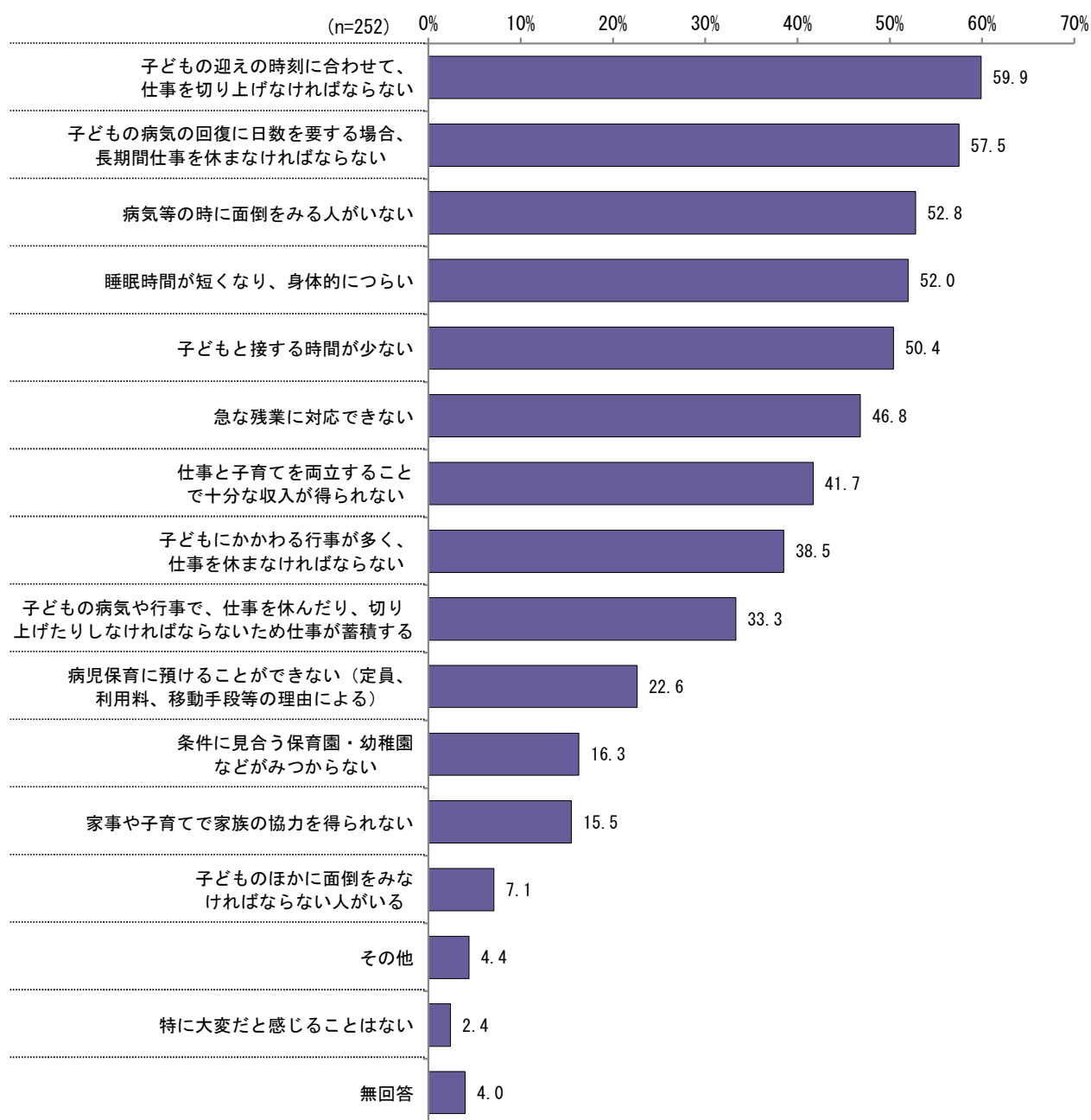
「仕事」、「家庭や地域生活」、「個人の生活」のバランスについて、あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれお答えください。【現状】

- 「仕事」を優先している
- 「家庭や地域生活」を優先している
- 「個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先している
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
- 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先している
- わからない
- 無回答



仕事と子育てを両立する上で大変なことについて、「子どもの迎えの時刻に合わせて、仕事を切り上げなければならない」との回答が59.9%と最も高く、次いで「子どもの病気の回復に日数を要する場合、長期間仕事を休まなければならない」、「病気等の時に面倒をみる人がいない」などの順となっています。

仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることは何ですか。(現在仕事をしていない方、また、子育てをしていない方は大変そうだと思うものを選択してください。)



こどもの育つ環境について

家庭、教育の場での男女共同参画

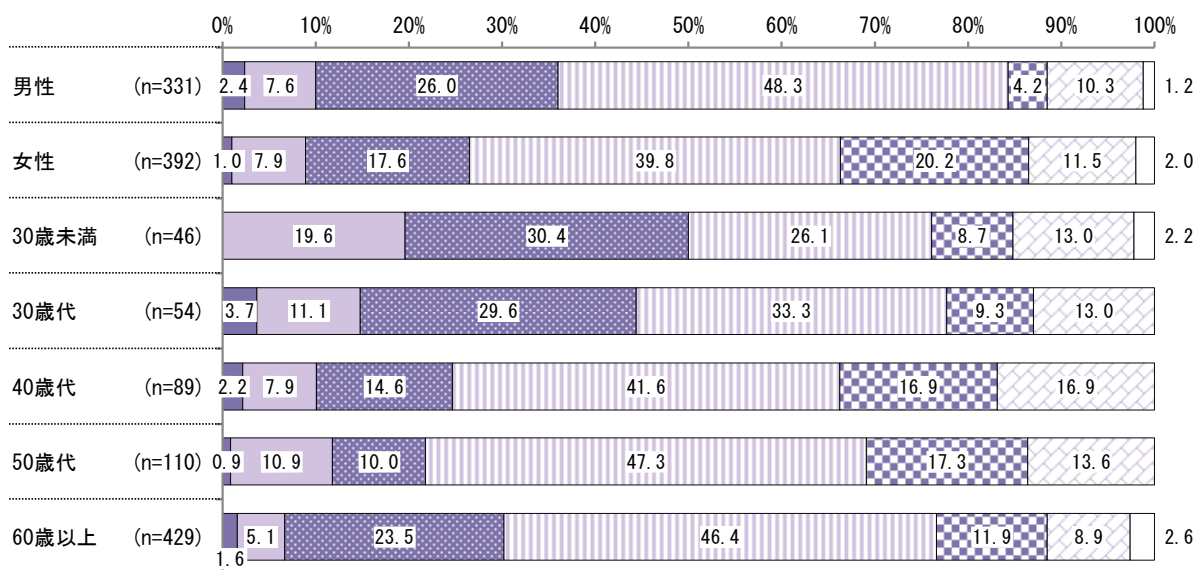
家庭での男女共同参画の状況を見ると、30代未満～30歳代では他の年代と比較して「平等になっている」の割合が高くなっています。

就学前の子どもがいる家庭では平等になっていると回答した割合が高い一方で、小学生の子どもがいる家庭では、男性優遇の傾向が強くなっています。

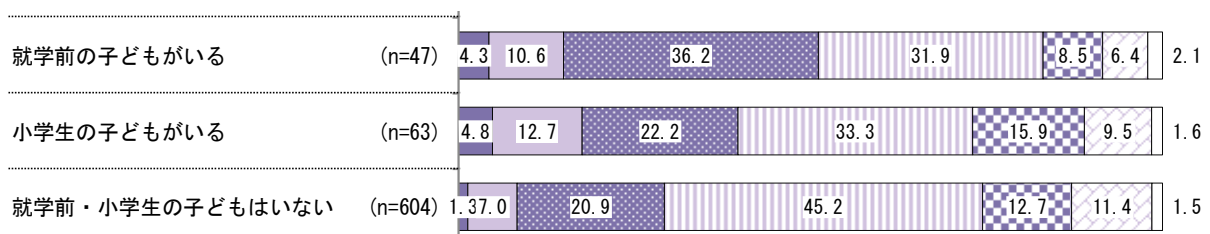
※ 男女平等とは、性別に関わらず、平等に責任や権利や機会をわかちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味しています。

あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。【家庭】

■性別・年代別

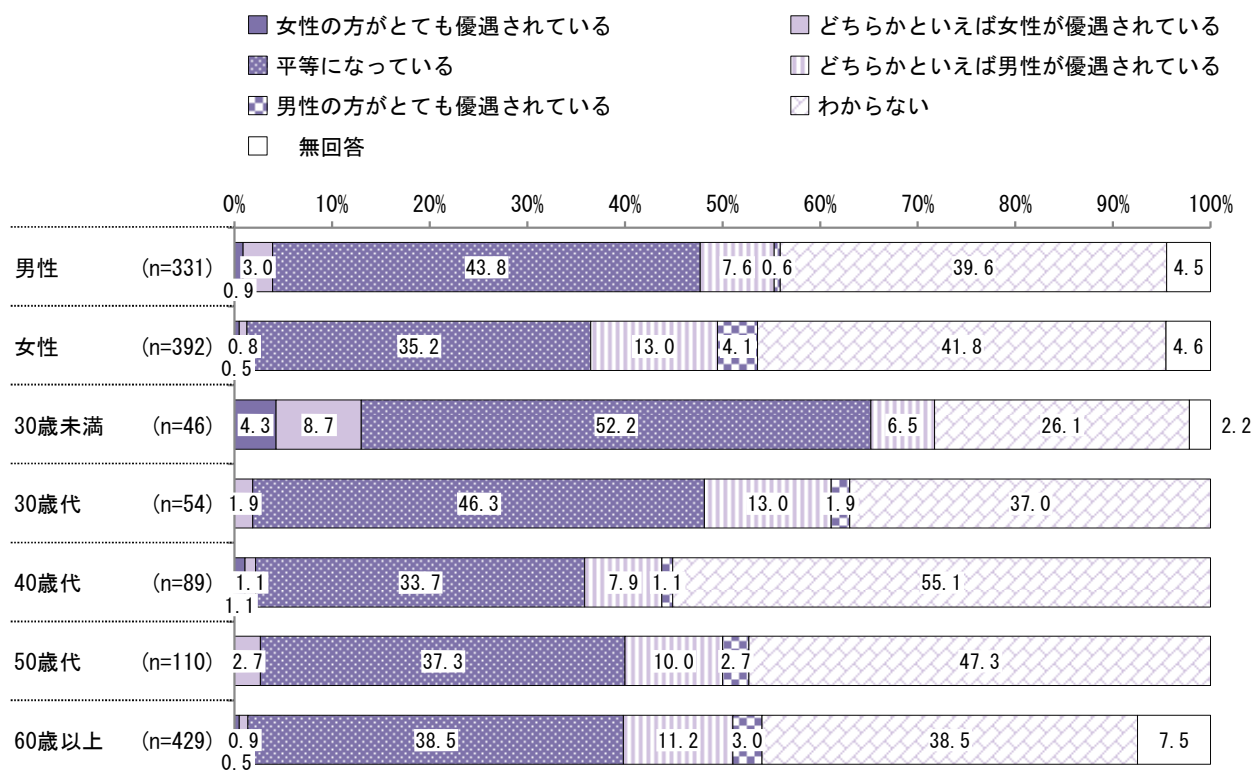


■子どもの有無別



学校教育の場では、家庭と比較して30歳未満～30歳代での「平等になっている」の割合が高くなっています。

あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。【学校教育の場】

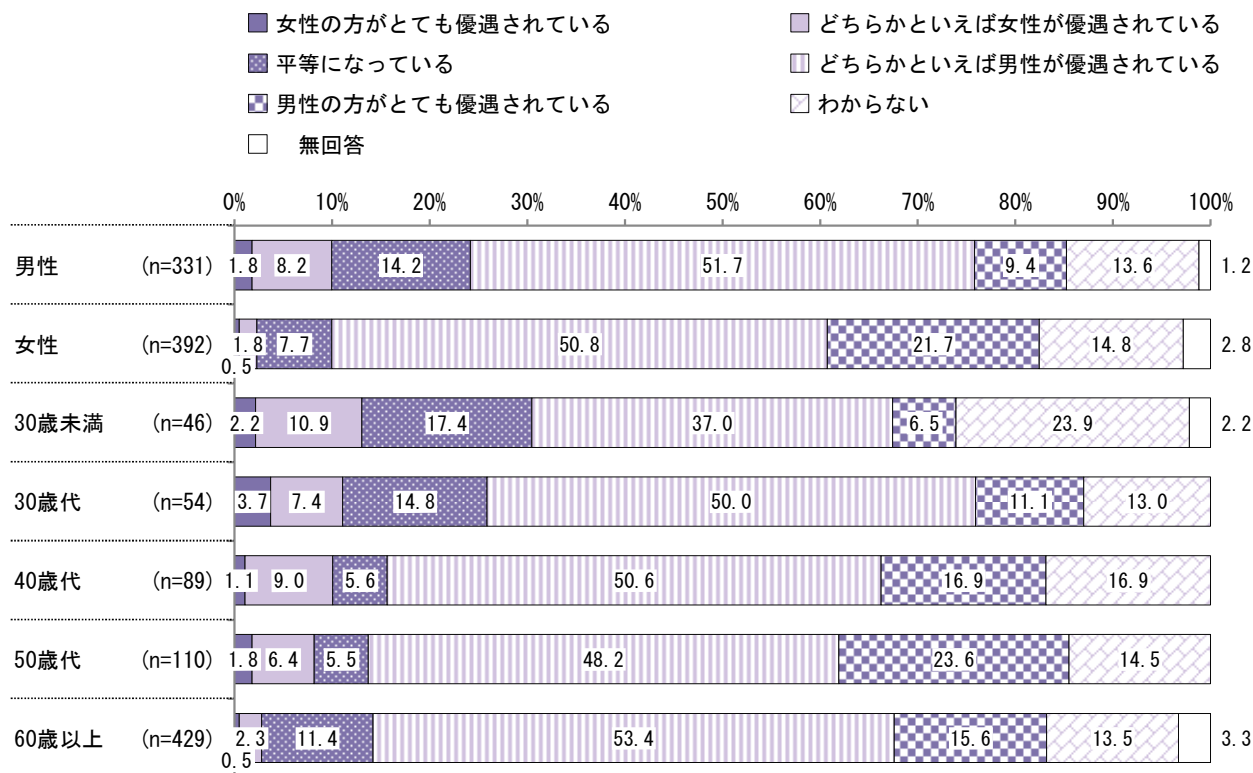


社会全体での男女共同参画について、30歳未満と30歳代は他の年代と比較して「平等になっている」の割合がやや高いものの、男性優遇の傾向が強い状況です。

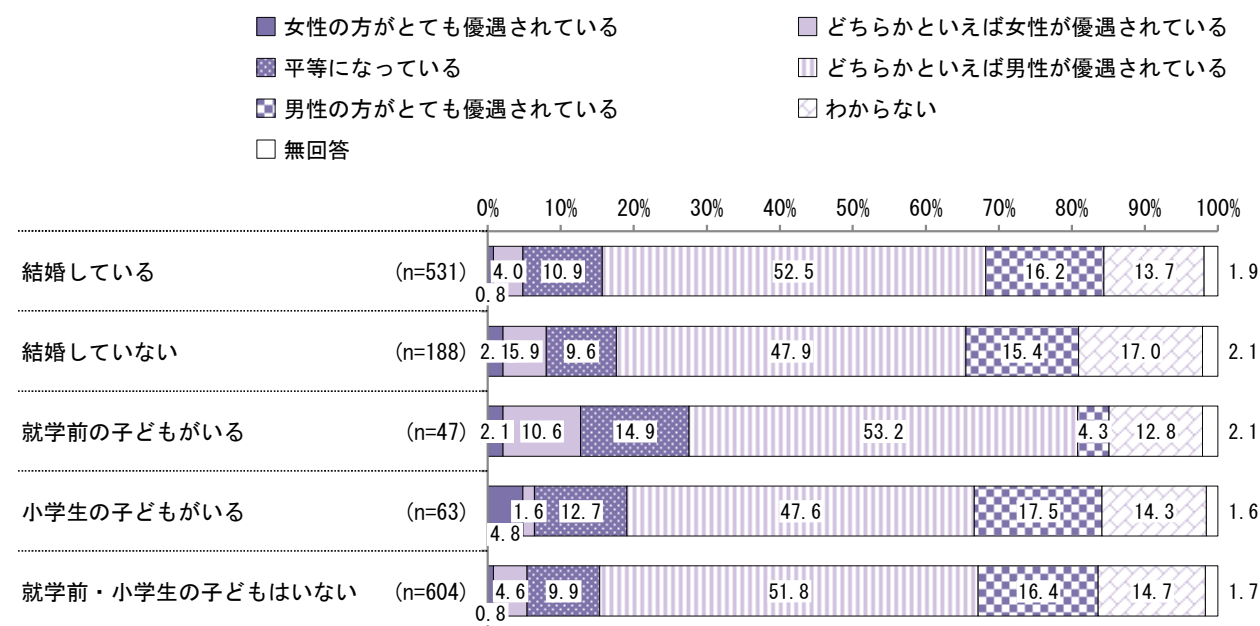
未婚・既婚で比較すると、既婚では男性優遇と感じる割合が未婚と比較して高くなっています。

あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。【社会全体】

■性別・年代別



■結婚別・子どもの有無別



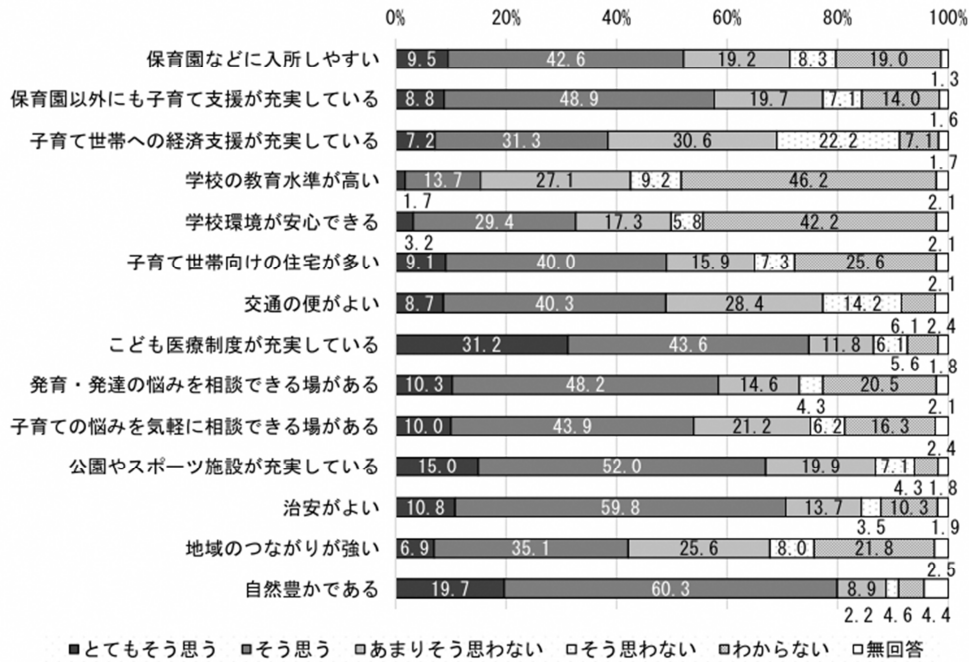
子育て環境について

就学前児童がいる保護者・小学生がいる保護者ともに、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合が高いものは「自然豊かである」「こども医療制度が充実している」となっています。「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が高いものは、「子育て世帯への経済支援が充実している」「交通の便がよい」となっています。

廿日市市の子育て環境について、以下の項目についてどのように感じていますか。

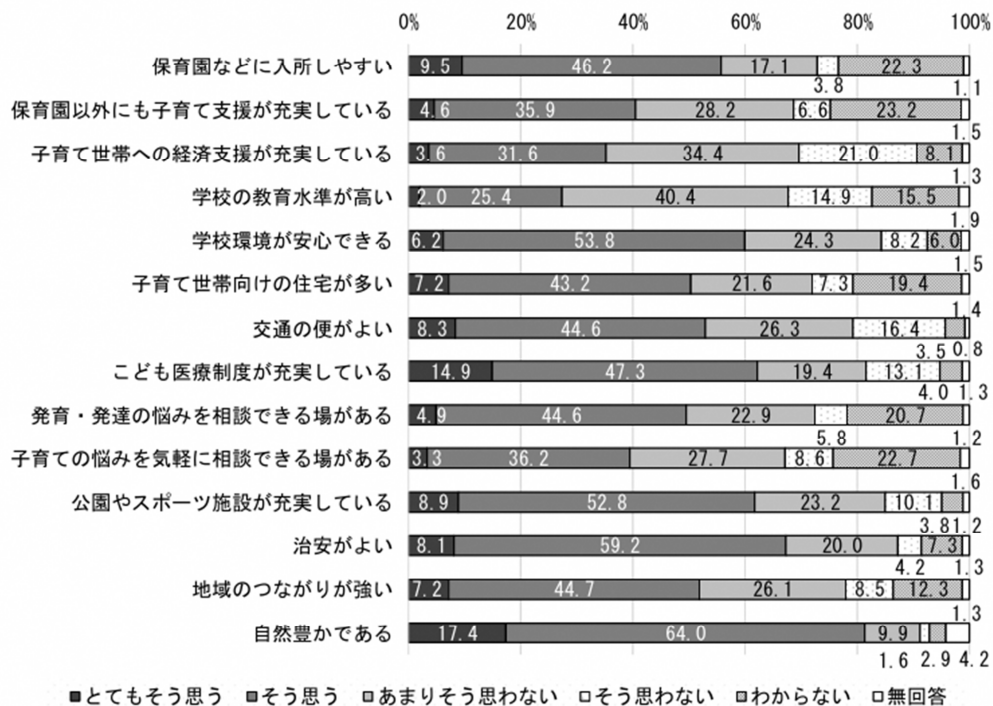
■就学前

n=936



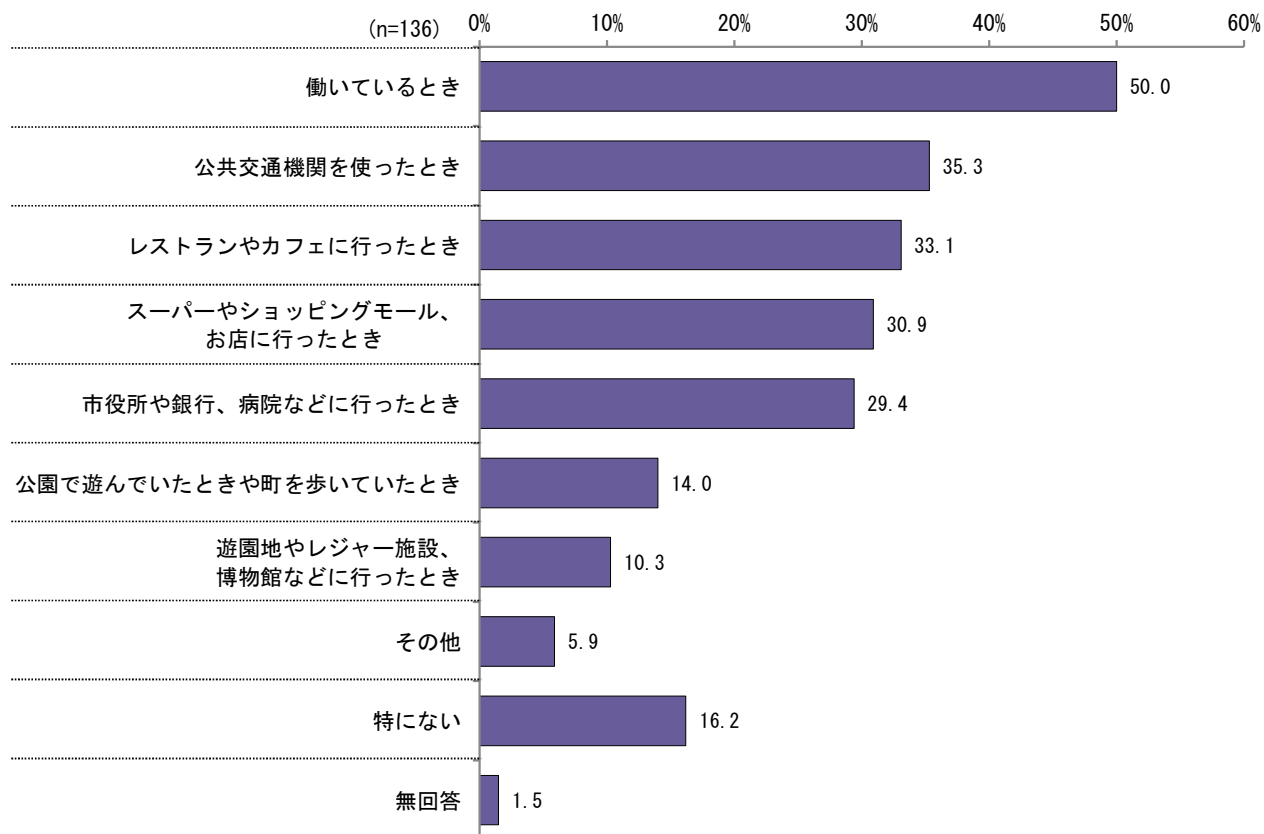
■小学生

n=852



子どもと一緒にいるとき、不便を感じたり、理解や配慮が欲しかった場面について、「働いているとき」との回答が50.0%と最も高く、次いで「公共交通機関を使ったとき」、「レストランやカフェに行ったとき」などの順となっています。

子どもと一緒にいるとき、不便を感じたり、周りからの理解や配慮が欲しかった場面をお答えください。



廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思うかについて、『そう思う（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」）』が71.8%、『そう思わない（「全くそう思わない」＋「あまりそう思わない」）』が23.0%となっています。

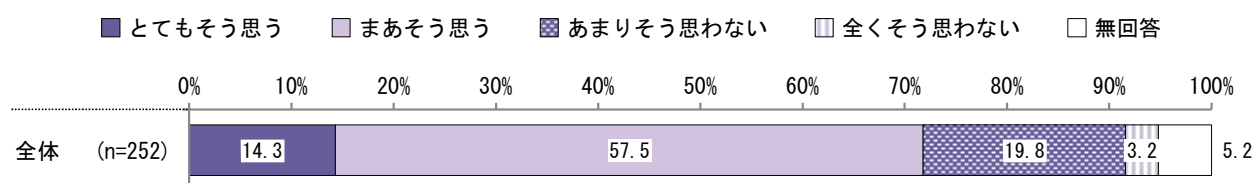
性別にみると、『そう思う』との回答は男性が女性を下回っています。

年齢別にみると、『そう思う』との回答はすべての年代で6割台半ば以上と高くなっています。

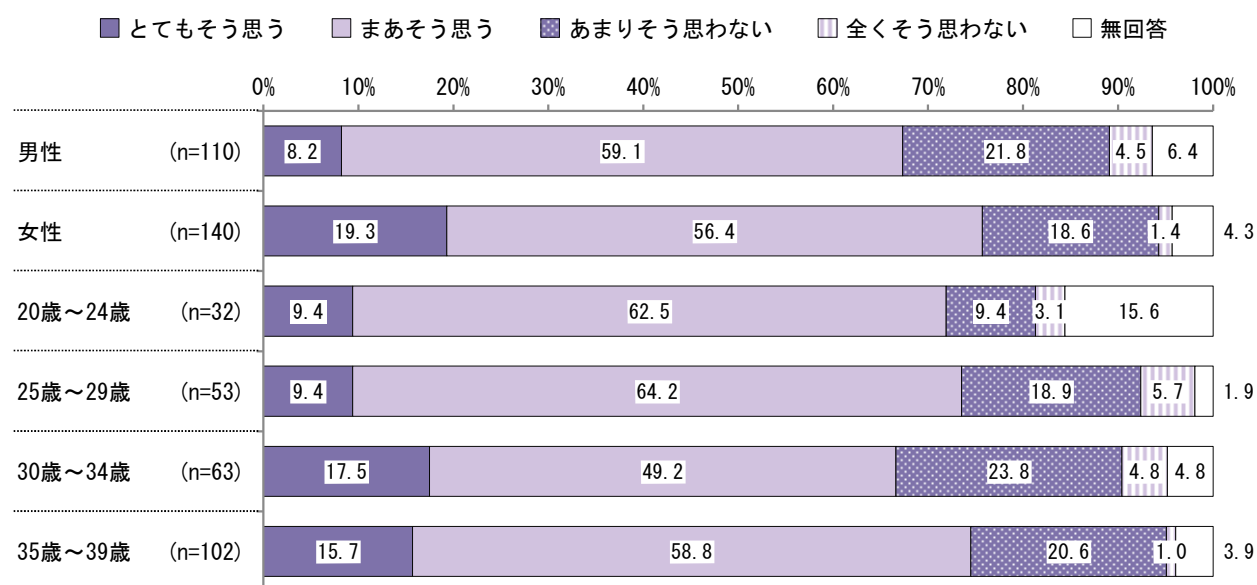
子どもの有無別にみると、『そう思う』との回答は「子どもあり」が「子どもなし」を上回っています。

あなたは廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちだと思いますか。

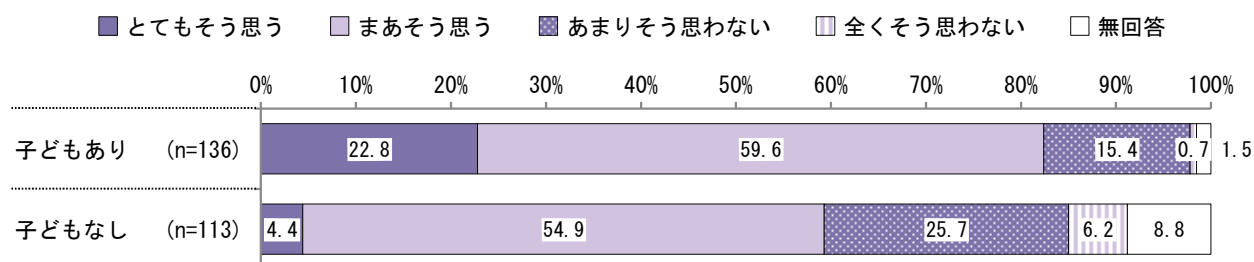
■全体



■性別・年代

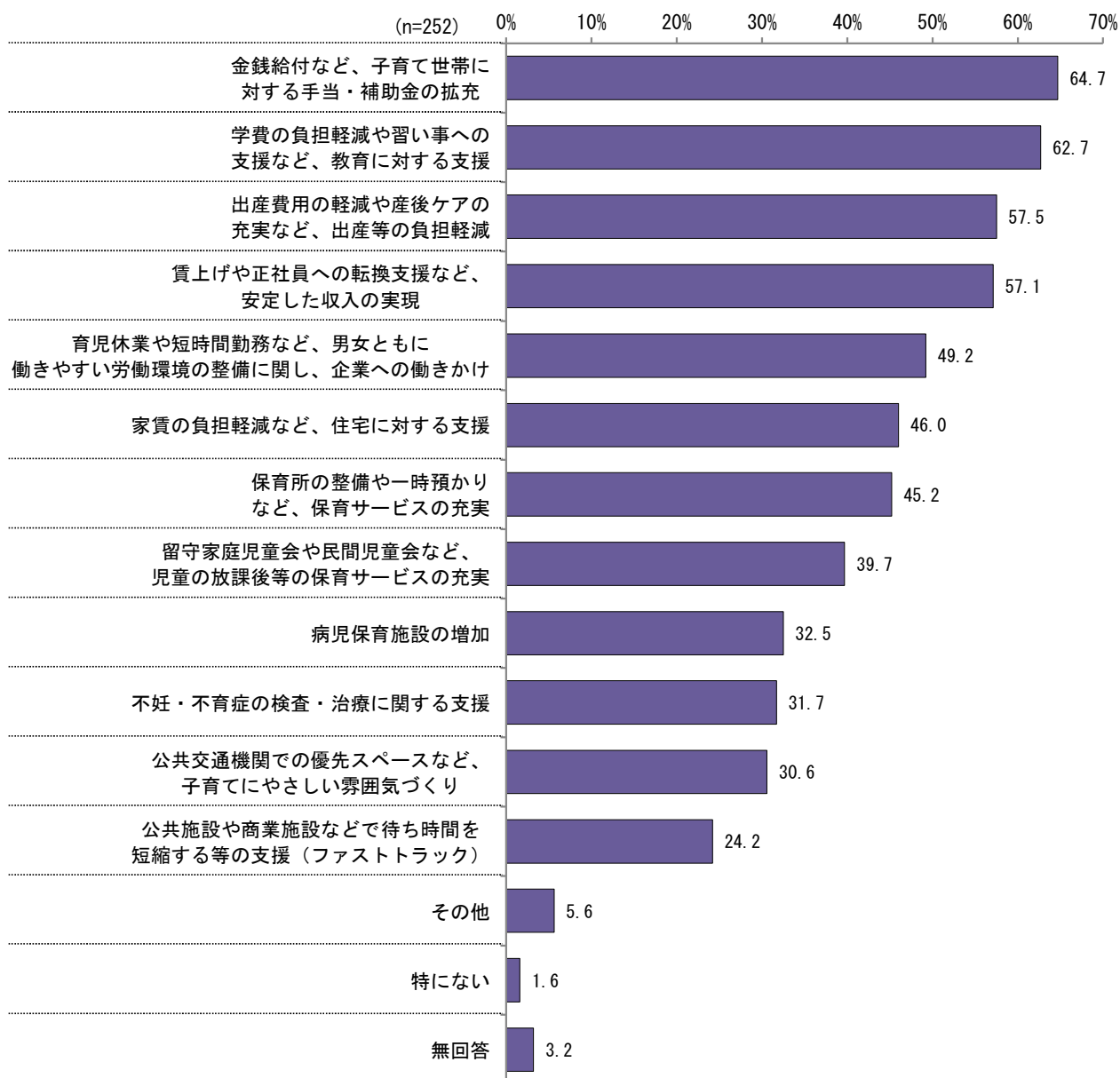


■子どもの有無別



廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちになるために必要な取組について、「金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充」との回答が64.7%と最も高く、次いで「学費の負担軽減や習い事への支援など、教育に対する支援」、「出産費用の軽減や産後ケアの充実など、出産等の負担軽減」などの順となっています。

廿日市市が子どもや子どもを持つ親に優しいまちになるためには、どのような取組が必要だと思いますか。



子育て世帯の状況

こどもの人数

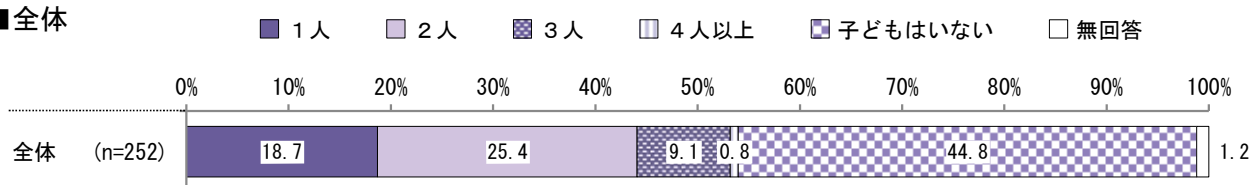
満20歳以上40歳未満の若者の子ども的人数について、「子どもはいない」との回答が44.8%と最も高く、次いで「2人」、「1人」などの順となっています。

年齢別にみると、「2人」との回答は35歳～39歳で4割超と高くなっています。

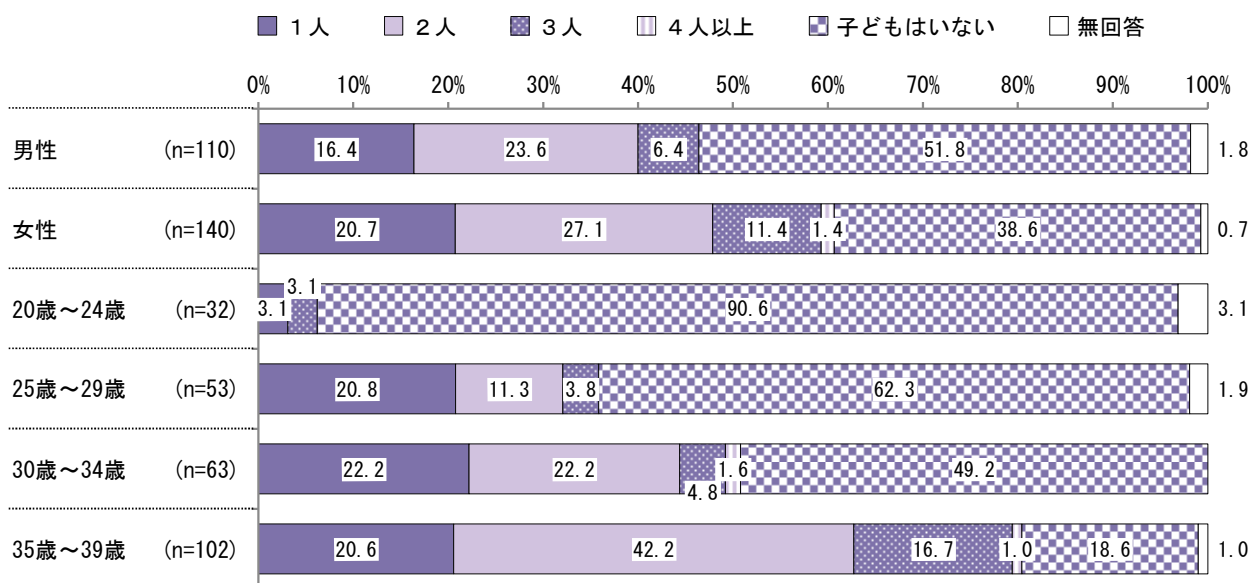
世帯年収別にみると、「子どもはいない」との回答は300万円未満では、300万円以上に比べて高くなっています。

あなたのご家庭には、お子さんは何人いますか。

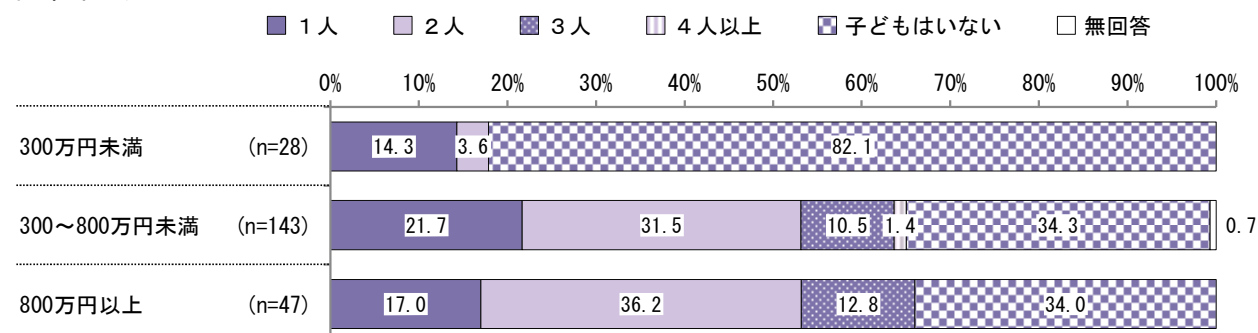
■全体



■性別・年齢別



■世帯年収別



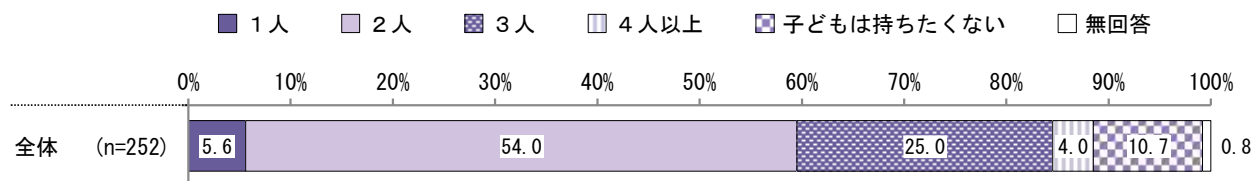
理想とする子どもの人数について、「2人」との回答が54.0%と最も高く、次いで「3人」、「子どもは持ちたくない」などの順となっています。

性別にみると、「子どもは持ちたくない」との回答は男性が女性を上回っており、「3人」との回答は男性が女性を下回っています。

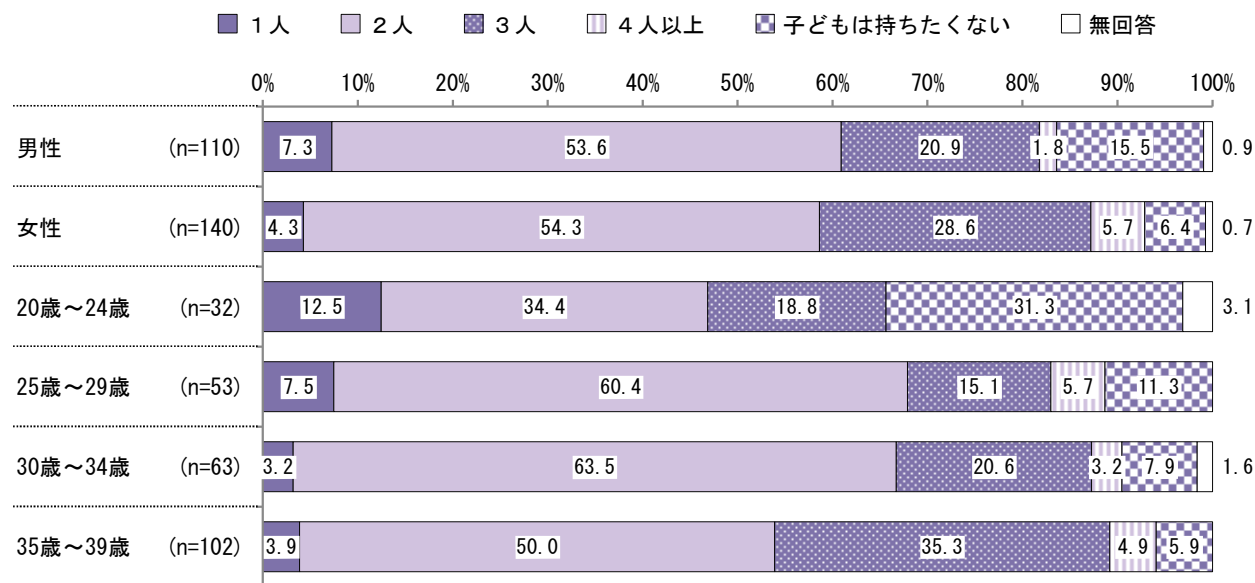
年齢別にみると、「2人」との回答は25歳～34歳で6割台と高くなっています。

あなたが理想とする子どもの人数を教えてください。

■全体



■性別・年齢別



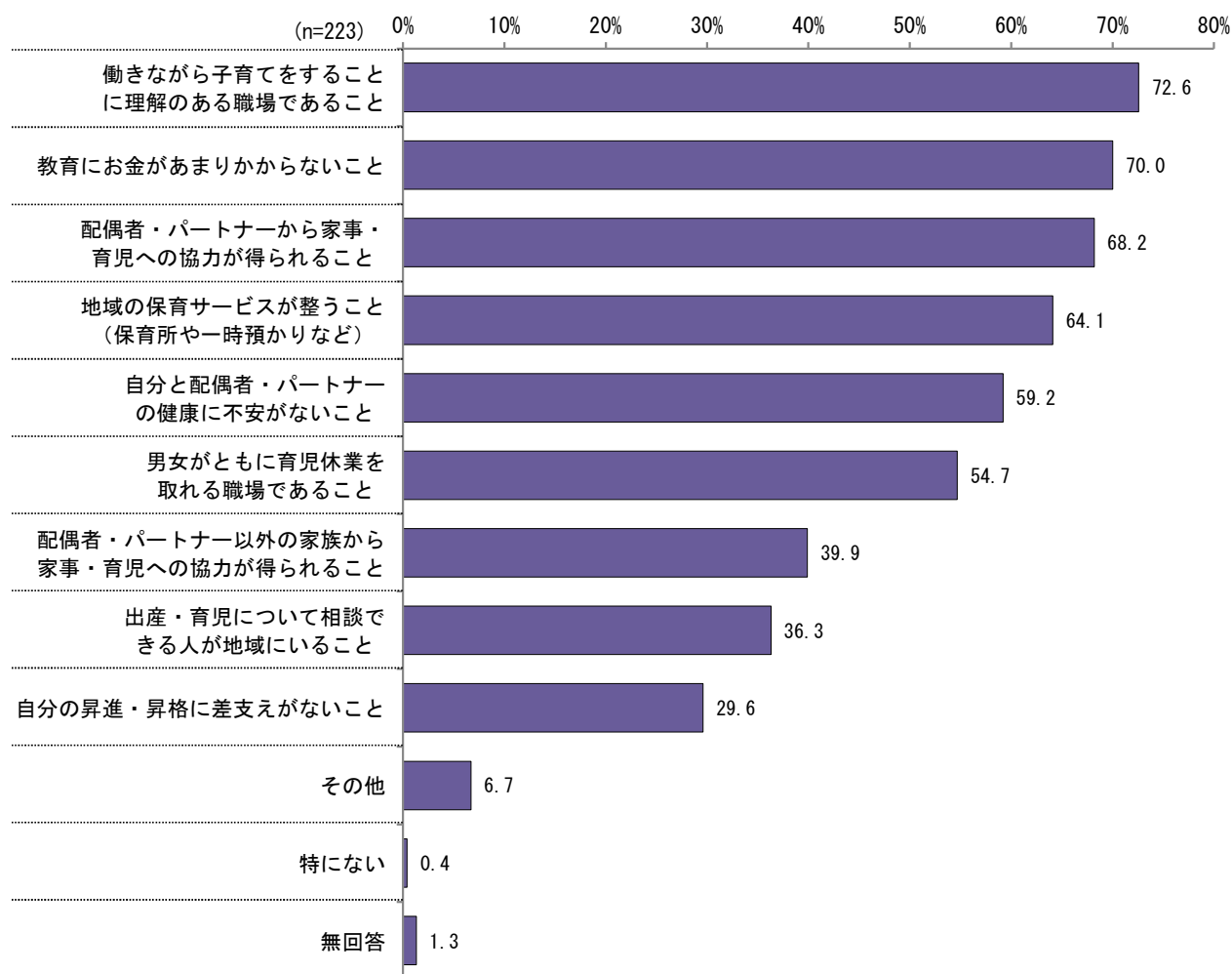
子どもを持つ場合の条件について、「働きながら子育てをすることに理解のある職場であること」との回答が72.6%と最も高く、次いで「教育にお金がかからないこと」、「配偶者・パートナーから家事・育児への協力が得られること」などの順となっています。

性別にみると、「教育にお金がかからないこと」との回答は男性が女性を上回っており、「配偶者・パートナーから家事・育児への協力が得られること」との回答は男性が女性を下回っています。

年齢別にみると、「男女がともに育児休業を取れる職場であること」との回答は20歳～24歳、25歳～29歳で6割台半ばと高くなっています。

あなたが子どもを持つ場合の条件としてどのようなことが考えられますか。

■全体



■性別・年齢別

%)

	n 数	働 き な が ら 子 育 て を す る こ と	教 育 に お 金 が あ ま り か ら な い こ と	配 偶 者 ・ パ ー ト ナ ー の 協 力 が 得 ら れ る こ と	地 域 の 保 育 所 や 一 時 預 か り な ど の こ と	自 分 と 配 偶 者 ・ パ ー ト ナ ー の 健 康 に 不 安 が な い こ と	男 女 が と も に 育 児 休 業 を 取 る 職 場 で あ る こ と	家 族 か ら 家 事 ・ 育 児 へ の 協 力 が 得 ら れ る こ と	配 偶 者 ・ パ ー ト ナ ー 以 外 の 人 が 地 域 に い る こ と	出 産 ・ 育 児 に つ い て 相 談 で き る 人 が あ る こ と	自 分 の 昇 進 ・ 昇 格 に 差 支 え が な い こ と
全 体	223	72.6	70.0	68.2	64.1	59.2	54.7	39.9	36.3	29.6	
性 別											
男性	92	64.1	78.3	56.5	64.1	57.6	58.7	33.7	30.4	33.7	
女性	130	78.5	63.8	76.2	63.8	60.0	51.5	43.8	40.8	26.9	
年 齢 別											
20歳～24歳	21	66.7	61.9	76.2	47.6	52.4	66.7	47.6	52.4	33.3	
25歳～29歳	47	74.5	80.9	76.6	72.3	55.3	66.0	34.0	44.7	27.7	
30歳～34歳	57	71.9	70.2	59.6	66.7	59.6	57.9	31.6	29.8	33.3	
35歳～39歳	96	72.9	66.7	67.7	61.5	61.5	45.8	45.8	33.3	28.1	

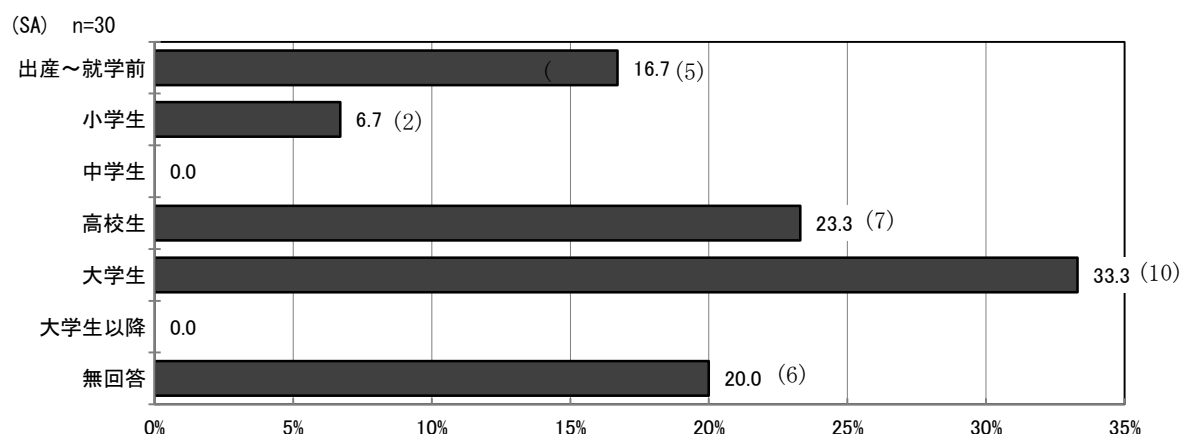
1位 2位 3位

経済的な負担の状況

経済的負担が一番重い年代として、大学生が最も高く、高校生、出産～就学前と続いています。高校生～大学生においては教育費の出費を負担に感じる傾向がみられ、教育費軽減を求める声があがっています。

子育てをしていくうえで、どの年代における経済的負担が大変だと思います(思いました)か。

■ 1番重と思う年代



■ 1番重と思う年代の理由(要約)

出産～就学前	紙おむつ代やミルク代、病院受診費用、ベビーカー等の育児準備品の費用がかさむ。初めての育児で予算が読みづらい不安も。
小学生	習い事や塾、子どもの成長に伴う出費が増える時期。親の働き方と支出のバランスが難しいとの声。
高校生	部活動費や塾代、携帯電話代、受験費用などがかかり、生活費も増加。PC購入など新たな出費も多い。
大学生	大学の学費が高く、一人暮らしや下宿費、授業料、資格試験、留学費用など多岐に渡る。塾代や模擬テスト費用も加わり負担が増大。

■ 1番目に重と思う年代の負担を軽くするために望む支援(要約)

出産～就学前	医療費無料、保育園無料、給食費無料、託児充実、紙おむつ・ミルク代補助、チャイルドシート補助希望。
小学生	親の年収による体験格差是正のため、イベントや修学旅行補助を要望。消費税軽減も挙げられる。
高校生	高校無償化、修学旅行費援助、支援金・減額、パソコン支給、無料給食などの支援希望。
大学生	大学進学支援、授業料援助、教材費込みの定額制学校希望、社会保険料負担減、児童手当拡充も要望あり。
その他	市主催の無料教室増設希望、児童手当のさらなる拡充も望まれている。